KIORITZ

共立スピードスプレーヤ

取 扱 説 明 書

型 式

SSV5150F

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 8

2 各部の名称と取り扱い 9
2-1. 各部の名称 9
2-2. 各部の取り扱い 11

3 作業の準備 17
3-1. 運転前点検 17
3-2. 燃料の準備 17
3-3. エンジンの運転 18
3-4. エンジン運転中の点検 19
3-5. エンジンの停止 19
3-6. 寒冷時の始動と点検 19

4 車両の運転 20
4-1. 発進の方法 20
4-2. 走行中の注意 21
4-3. 坂道の走行 22
4-4. 車両の停止 22
4-5. 電動パワーステアリングの取り扱い 24
4-6. 車両の運搬 25

5 散布作業 26
5-1. 散布計画 26
5-2. 薬液散布の方法 31
5-3. 薬液散布の準備 33
5-4. 薬液散布の操作 33
5-5. 散布終了 34

6 作業終了後 35
6-1. 清掃 35
6-2. 保管 37

7 点検･整備 38
7-1. 日常点検・定期点検 38
7-2. 潤滑油の補給 42
7-3. 各部の点検 44
7-4. 故障対策 51
7-5. 長期格納整備 54

8 仕様 55

9 配線図 57

10 配管図 58

11 小型特殊自動車の点検 59

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものがすべて禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書をよく読み、正しく作業すること		「挟まれ」に注意すること
	作業中は、保護具を必ず着用すること。		「毒性」に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		「巻き込まれ」に注意すること
	火災に注意すること		運転中は送風機に近づかないこと
	「電気ショック」に注意すること		薬害や環境汚染に十分に配慮し、薬液は必ず使い切ること
	高温部に注意すること		作業中はノズルに近づかないこと

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品の使用目的以外の使用禁止

❍ この製品は果樹園での散布作業に使用してください。
❍ 本書に記載されている用途以外に使用しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

❍ 製品を改造しないでください。

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

❍ 定期的に点検・整備をしてください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

❍ 製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者

❍ 体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。
❍ 次のような人は使用しないでください。

- **妊娠している人**
- **取扱説明書の内容を理解していない人**
- **農薬の影響を受けやすい人**



❍ スピードスプレーヤを初めて使用する人は、農協や防除共済組合などの職員から散布作業の注意事項について説明を受け、作業前に散布作業の計画を立てて指導に従って作業をしてください。

事故や重傷を負う原因となります。

健康管理

❍ 休憩をとりながら余裕を持って作業をしてください。
❍ 長時間の連続作業は避け、２時間を限度としてください。

健康障害を受ける恐れがあります。

服装を整える

❍ 首にタオルを巻くことや、腰手ぬぐいは、しないでください。

回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。

製品の使用環境・作業環境

❍ 次のような場合は製品を使用しないでください。

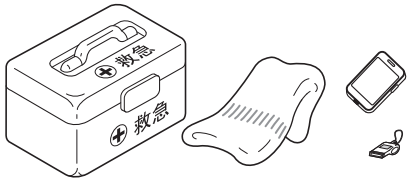
- **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
- **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
- **夜間や視界が悪い場所**

転落や滑落、誤った操作などにより事故や重傷を負う原因となります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

事故やケガへの備え



- **事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。**
  - **救急箱（応急手当用）**
  - **タオルや手ぬぐい（止血用）**
  - **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

  応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。

発火・発煙・火災への備え

- **発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。**
- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず製品から離れて、身体の安全を確保してください。**
- **周囲に類焼しないようにシャベルで砂を掛けるか、消火器で消火してください。**

  あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

⚠ 注意

取扱説明書



- **この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。**
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。**
- **製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。**
- **使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。**

  事故や重傷を負う原因となります。

保護具の着用

- **農薬を使用するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付け、農薬に直接触れないでください。**

  農薬に触れたり吸引したりすると、薬害事故の恐れがあります。
- **作業中に着た服は、他の衣服と別に洗ってください。**

  薬害事故の恐れがあります。
- **ヘルメットとゴーグルを装着をしてください。**

  薬害対策だけでなく万一の事故の際に被害を軽減する効果があります。



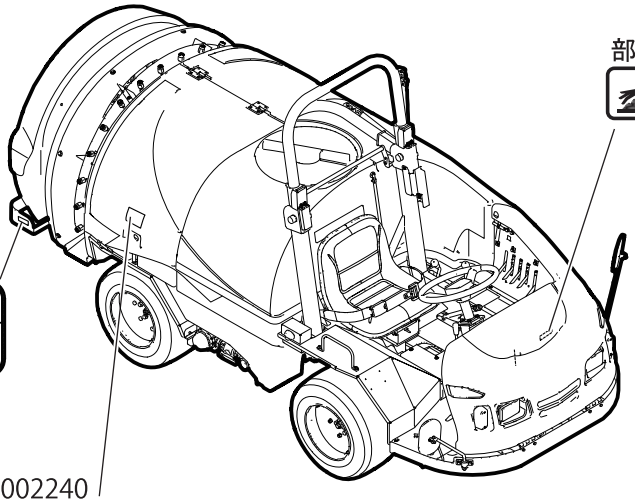
重要

- 使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。

安全にご使用いただくために

警告表示ラベル

- **本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。**
- **ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。**



部品番号;890157-55630

注意 高温部に注意してください

部品番号;890060-5583

注 意
高温部に注意してください

部品番号 ;X505-002240

注意
可動部注意
ケガをするおそれがありますので、カバーを開けたり外したりするときはエンジンを停止してください。
X505-002240

部品番号 ; X505-012090

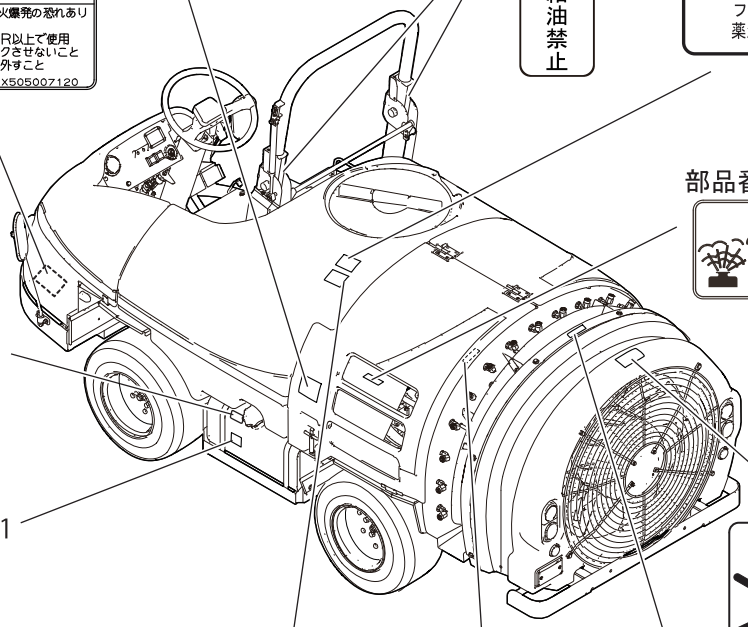
警告
ヒンジ内部に給油禁止

部品番号;890016-00600

注 意
フタは確実にしめてください。
薬液をあびるおそれがあります。
890016-00600

部品番号;X505-007120

危 険
バッテリーは取扱を誤ると水素ガス発生、引火爆発の恐れあり
・取扱説明書熟読のこと
・バッテリー液はUPPER以下、LOWER以上で使用
・コードは確実に固定し、ショート、スパークさせないこと
・充電、点検時は必ずマイナス極側コードを外すこと
・バッテリー液の取扱、火気に十分注意
X505007120



部品番号;X505-009830

危 険
高温時にキャップを開けないでください。熱湯が噴き出し、やけどをするおそれがあります。

部品番号 ; 91763318200

軽 油
火気厳禁

部品番号;890098-00101

危 険
給油口に火を近づけないでください。
給油中はエンジンを停止してください。
火災となるおそれがあります。
890098-00101

部品番号;X505-002270

警告
吸込まれるおそれあり
・運転中は送風機に近づかないこと。
・メンテナンスするときはエンジンを停止してから行なうこと。
X505-002270

部品番号;890157-55630

注意 高温部に注意してください

部品番号;X505-002250

警告
薬害注意
・専用の給水栓・貯水槽から給水を行なうこと。
・薬害や環境汚染に十分配慮し薬液は必ず使い切ること。
X505-002250

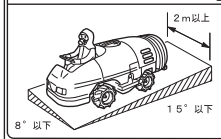
部品番号;X505-002260

注意
薬液注意
薬液をあびるおそれがありますので作業中はノズルに近づかないでください。
X505-002260

安全にご使用いただくために

部品番号；X505-008440

警　告



作業場所の点検
- 路面幅は2m以上確保すること。
- 横転のおそれがありますので進行方向横向きの傾斜は8°以下とすること。
- 滑落のおそれがありますので進行方向の傾斜は15°以下とすること。
- 移動走行及び作業中にタイヤが浮いたり脱輪するような路面は整備すること。

注　意

作業上の注意

作業前は、次のことに注意ください。
- 発進及び送風機スイッチ、薬液ポンプスイッチ、散布コックレバーを「入」にする時は、周囲の人に合図をし安全の確認をしてください。
- エンジン始動時は必ず主変速レバーを「N」、送風機スイッチ・薬液ポンプスイッチを「切」にし、クラッチペダルをいっぱいに踏込んでください。

作業中は、次のことに注意ください。
- 送風機スイッチを「入」にする時は、本機を停車させアクセルレバーを「🐢」に戻してからクラッチを「入」にしてください。
- 薬液ポンプスイッチを「入」にしたら、速やかにエンジン回転数を上げて作業してください。
- 高速走行時の急旋回は行わないでください。
- 傾斜地は低速で走行してください。

作業後は、次のことに注意ください。
- 作業後は手・足・顔をよく洗い、うがいをしてください。
- 本機から離れる時、点検整備の時は必ずエンジンを停止してください。
- 駐車時は必ず駐車ブレーキを使用してください。

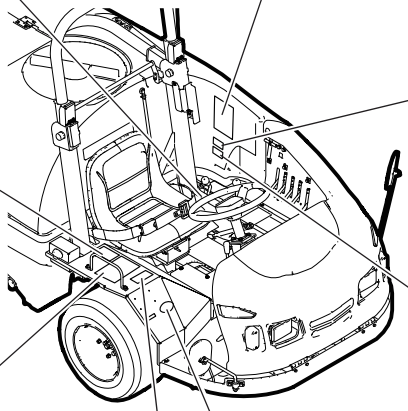
X505-008440

部品番号；890016-01200

注　意

輸送時の積み込み、積み降し時は次のことに注意ください
- 平坦地で誘導者の指示のもとで行ってください。
- 作業員以外の人を近づけないでください。
- 本機の重量に見合った輸送機を使用してください。
- 輸送機は駐車ブレーキ、歯止め等により確実に固定してください。
- アユミ板は充分な強度と長さのあるスベリ止めのある物を使用してください。
- アユミ板の傾斜角度は１５°以下にしてください。
- 薬液タンクは空にして行なってください。
- 積み込み、積み降し時の速度は前進、後進共最低速度ギアで行なってください。
- 途中でのエンジン停止時はブレーキを使用し本機を停止させその後除々にブレーキをゆるめ平坦地まで降ろして下さい。
  絶対にクラッチは使用しないでください。
- 積み込んだらギアを低速に入れ駐車ブレーキをかけ本機をロープ等で確実に固定してください。

890016-01200

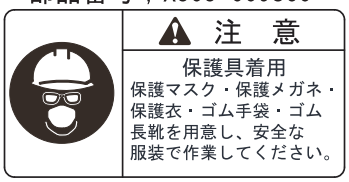


型式銘板

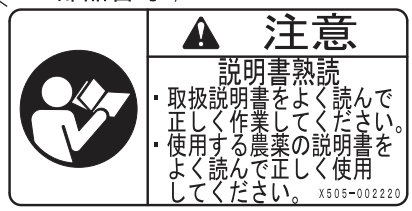
部品番号；X505-005980



部品番号；X505-009860



部品番号；X505-002220



部品番号；X505-012040

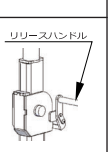
警　告
- 樹木や建造物に干渉する場合　輸送時を除き、保護フレームを起こしシートベルトを装着してください。
- 保護フレームを改造しないでください。
- 保護フレームが損傷した時、故障した時は　販売店で修理してください。

【まもらないと】
転倒転落時、運転者の被害が大きくなる恐れがあります。

注　意
- 保護フレームを動かすときは　手指などを挟まないよう注意してください。

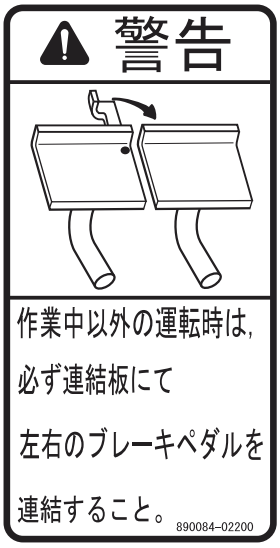
保護装備について

保護フレーム：転倒転覆したときに　被害を軽減するものです。
- 保護フレームを動かすときは、停車し駐車ブレーキをかけ主変速をNまたは停止、副変速を低速にしてください。
- 保護フレームを起こすときは、保護フレーム上部を前上方に止まるまでゆっくり持ち上げてください。
- 保護フレームを起こしたときは、保護フレームをゆすって固定されたことを確認してください。
  ガタが大きいときは、リリースハンドルを一度運転席側に引いてください。
  ガタが減らない場合は整備してください。
- 保護フレームを倒すときは、リリースハンドルを運転席側へいっぱいに引き保護フレーム上部を後ろへ　止まるまでゆっくり押し下げてください。
- 保護フレームを倒しているときは、副変速を高速にできません。



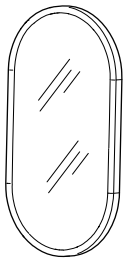
シートベルト
- 座席に座り、ねじれをなくしたベルトを腰骨にかけ　バックルに金具を差し込み　長さを調節してベルトの弛みをとってください。
- ベルトを外すときは、バックル中央のボタンを押し込んでください。

部品番号；890084-02200



1. 付属品の確認

❍ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



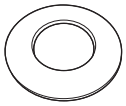
ミラー
×2



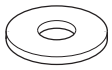
ミラーステー（左）
×1



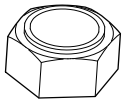
ミラーステー（右）
×1



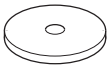
コニカルワッシャ
×2



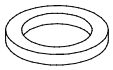
ワッシャ
×2



ロックナット
×2



ノズルディスク φ1.6
×2



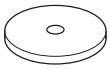
パイプパッキン
×4



キャップ 黒
×2



キャップ 赤
×2



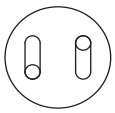
ノズルディスク φ1.2
×2



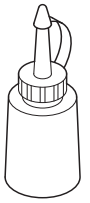
ノズルプラグ
×2



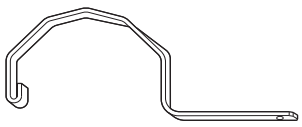
中子 セミ3ホール
×2



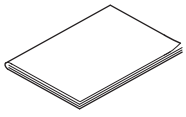
中子 2ホール
×2



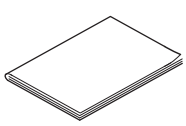
オイラ
×1



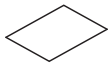
レンチツール
×1



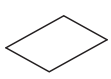
取扱説明書（製品）
×1



安全読本
×1



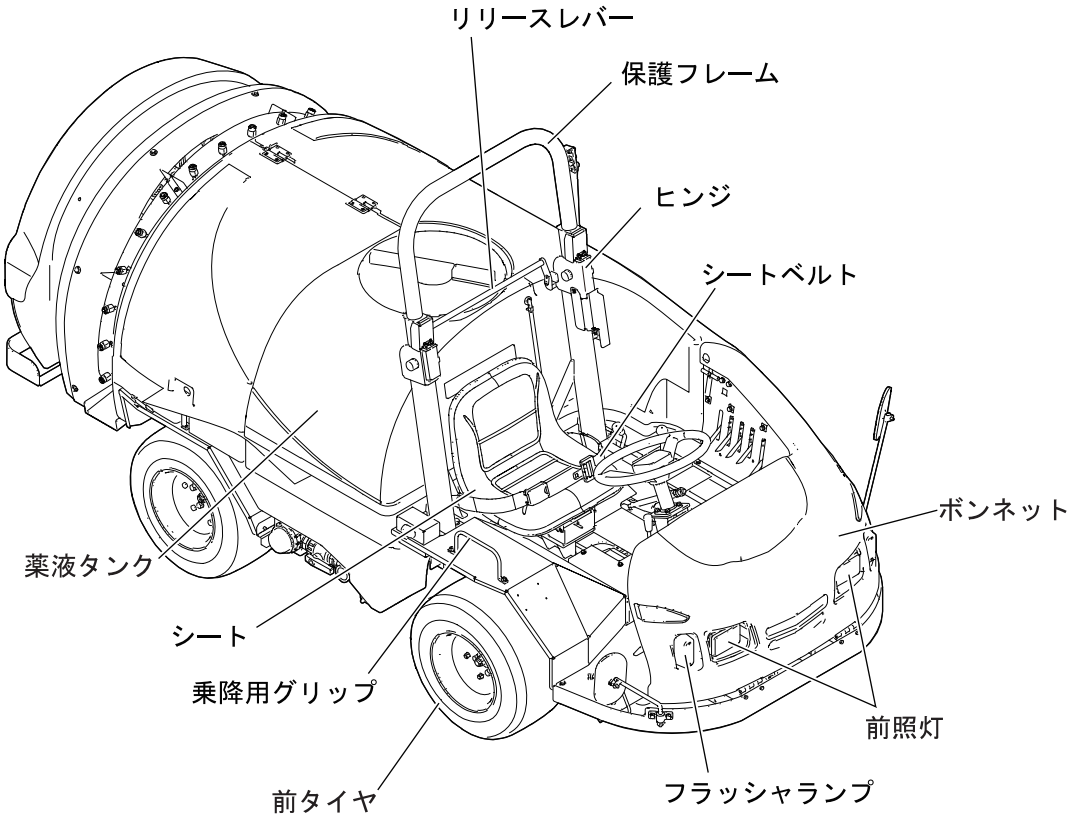
保証書（動噴）
×1

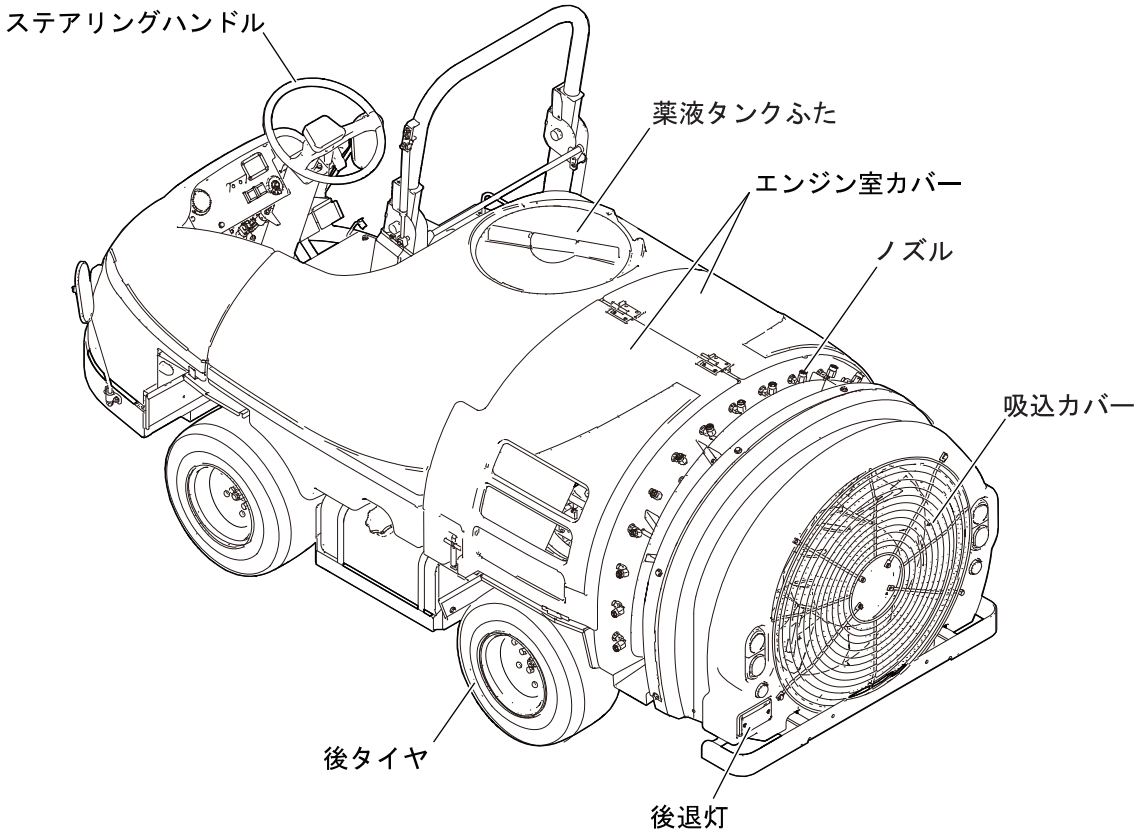


保証書（製品）
×1

2. 各部の名称と取り扱い

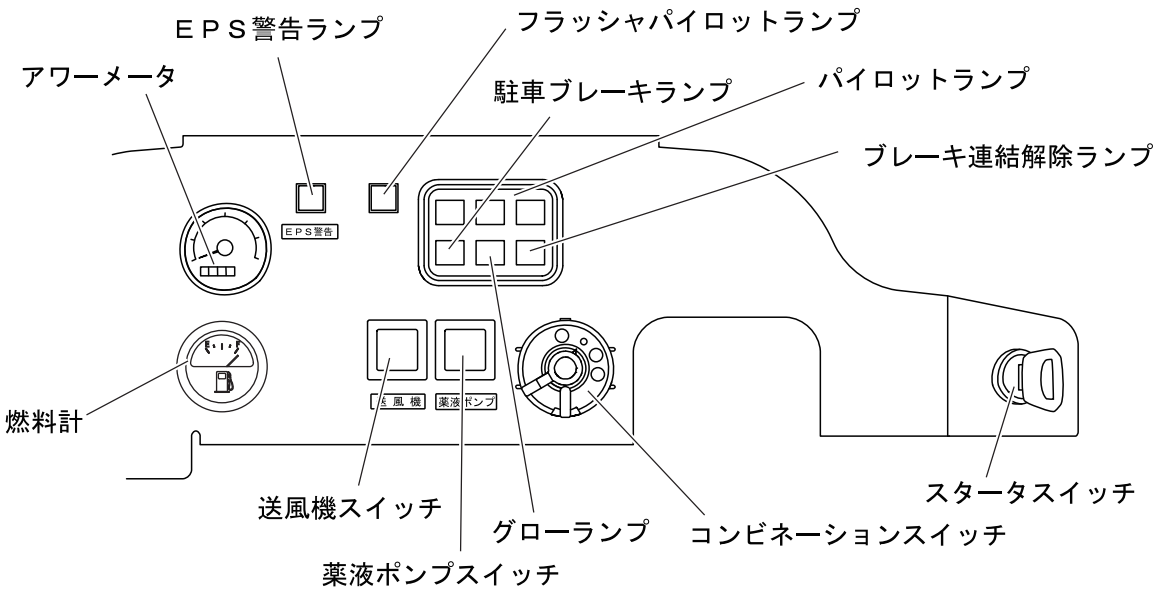
2-1. 各部の名称



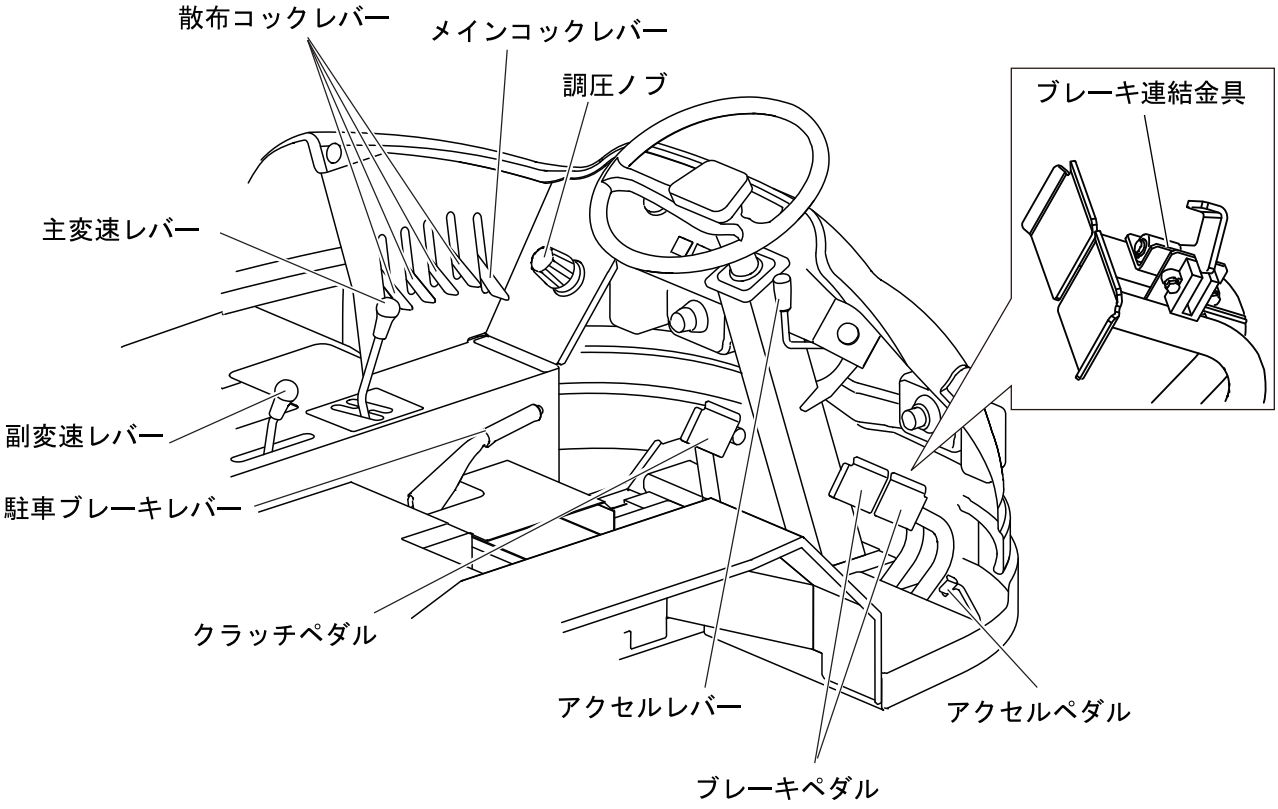


2. 各部の名称と取り扱い

■ フロントパネル

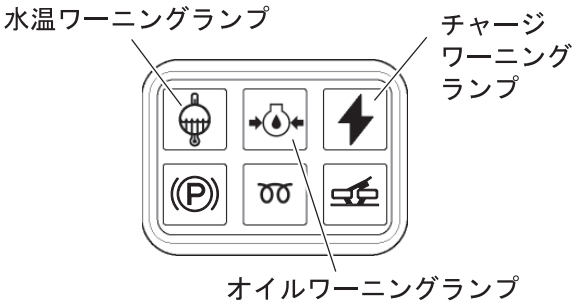


■ 運転席



2-2. 各部の取り扱い

■パイロットランプ



パイロットランプ
チャージワーニングランプ

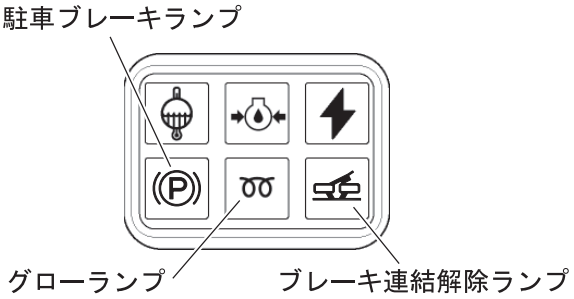
- スタータスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。運転中にこのランプが点灯したときは直ちにエンジンを停止して点検をしてください。

水温ワーニングランプ

- エンジン冷却水の異常温度を示します。運転中にこのランプが点灯したときは直ちにエンジンを停止して点検をしてください。

オイルワーニングランプ

- スタータスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。
- エンジンの運転中にこのランプが点灯したときはエンジンを停止し、直ちに点検してください。



駐車ブレーキランプ

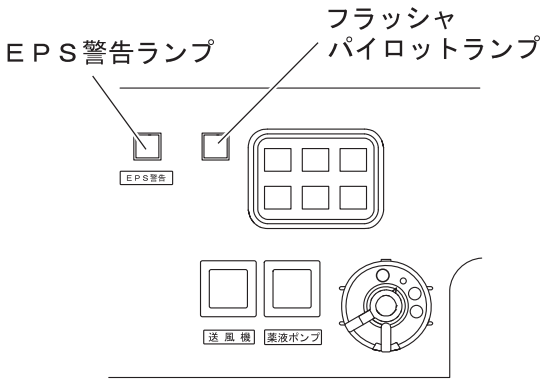
- 駐車ブレーキを掛けたときに点灯します。

ブレーキ連結解除ランプ

- ブレーキ連結金具で左右のブレーキペダルの連結を解除すると、ランプが点灯します。

グローランプ

- スタータスイッチを「予熱」にするとグローランプが点灯し、グロープラグを赤熱します。約 3 秒で予熱が終了し、グローランプが消灯します。（寒冷時には、予熱が終了しランプが消灯するまで約 3 秒以上かかる場合があります）



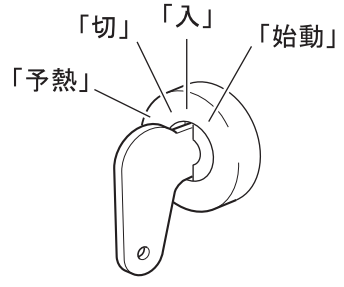
フラッシャパイロットランプ

- 方向指示のフラッシャランプが点滅していることを示します。

ＥＰＳ 警告ランプ（電動パワーステアリングの異常の時点灯します）

- 停車中や極低速のときステアリング操作を繰り返す、または、停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯しステアリングが重くなる場合があります。その時は　安全な場所に停車しエンジンを再始動してください。その後も走行中に点灯する場合は、直ちに販売店で点検を受けてください。
  注意：ステアリング操作は、エンジンをかけてから行なってください。

■フロントパネル



スタータスイッチ
「予熱」

グロープラグを赤熱する状態。

「切」

エンジンの電源が切れている状態。

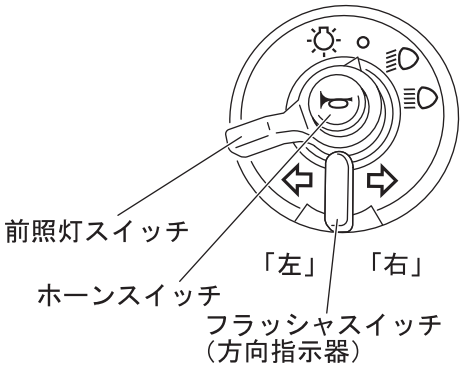
「入」

エンジンの電源が入っている状態。エンジン運転中はこの位置になります。

「始動」

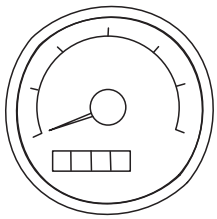
エンジンを始動させるとき　キーを「始動」の位置へ回します。キーから手を離すと「入」の位置に戻

ります。（18 ページの「エンジンの運転」を参照）



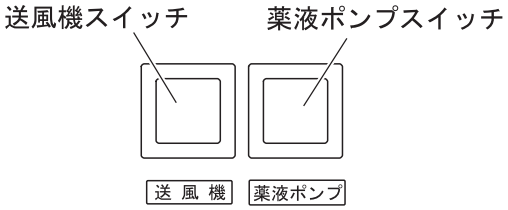
コンビネーションスイッチ

- 「ホーンスイッチ」… スタータスイッチを「入」にしてホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。
- 「前照灯スイッチ」… 前照灯スイッチを時計方向に回すと１段目で下向きに、２段目で上向きに前照灯が点灯します。
- 「フラッシャスイッチ (方向指示器)」… フラッシャスイッチを曲がりたい方向に操作すると、フラッシャランプが点滅します。同時にフラッシャパイロットランプも点滅します。



アワーメータ

- エンジンを運転した累積時間を示します。この時間が各部オイル交換や定期点検などの基準になります。

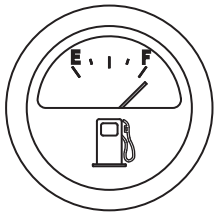


送風機スイッチ

- 送風機を作動させるスイッチです。
- エンジンが作動している状態で使用します。スイッチを押し「入」にすると、スイッチ本体が点灯し送風機が回り始めます。もう一度押すと「切」になり、送風機が停止します。
- エンジンが高速回転のときは、スイッチを押しても送風機は作動しません。車両を停止させてからアクセルレバーを「低速」にし、スイッチを押してください。送風機が回転し始めてからアクセルレバーを「高速」にしてください。

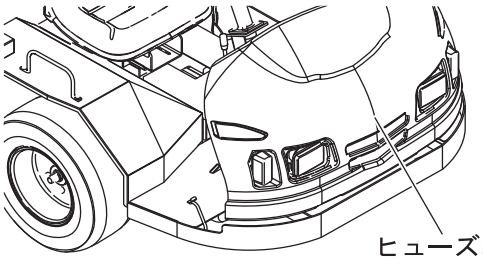
薬液ポンプスイッチ

- 薬液ポンプを作動させるスイッチです。
- エンジンが作動している状態で使用します。スイッチを押し「入」にすると、スイッチ本体が点灯し薬液ポンプが作動し薬液が散布できる状態になります。もう一度押すと「切」になり、薬液ポンプが停止します。



燃料計

- 燃料の残量は燃料計で確認できます。電気式のためスタータスイッチを「入」にすると針が動きます。燃料系の針が「E」に振れたら燃料の補給をしてください。
- 燃料満タンで針は「F」に振れます。



ヒューズボックス

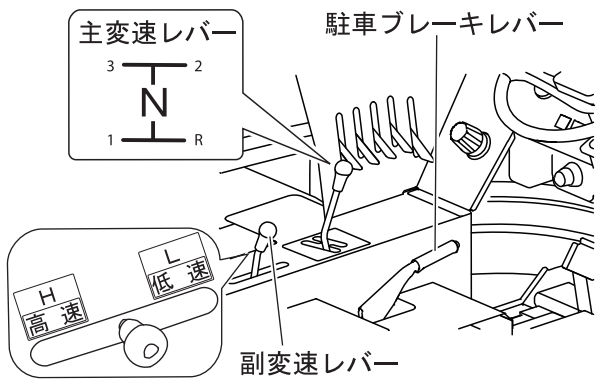
- 各種のランプが点灯しないときや、電気系統の装置が動かないときはヒューズが切れている場合があります。

ヒューズボックス					
スタータリレー 30A	水温停止リレー 10A	燃料ポンプ 10A	汎用電気 15A	ヘッドランプ 15A	燃料計 5A
予備 10A		予備 15A		予備 30A	
ウインカー後退灯 15A	薬液ポンプ 10A	送風ファン 10A	電動パワステ 7.5A	オプション電源 15A	

■保護装備操作方法

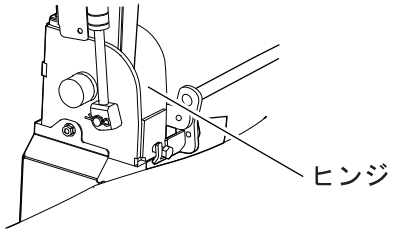
⚠ 警告

- **保護フレームは車両転倒時に運転者の傷害を軽減するものです。**
- **保護フレームは機体から外さないでください。**
- **保護フレーム自体に損傷がないか、取付金具がゆるんでいないか、定期的に十分に点検を行ってください。**
- **保護フレームが損傷した場合は、新しいものに交換してください。修理、改造しての使用はしないでください。**
- **ヒンジ内部に給油禁止。保護フレームが機能しなくなる場合があります。**
- **頭上の障害物に注意し、これらに衝突しないように注意してください。**
- **散布中の樹木への干渉や建物への干渉がある場合を除き、保護フレームは起こして使用してください。**
- **車両を運転する時は、シートベルトを着用してください。**
- **シートベルトを着用し、緊急時にシートベルトを迅速に外せるよう練習しておいてください。**
- **シートベルト、保護帽（ヘルメット）を使用しないと転倒時の投げ出されや、頭部への衝撃は避けられません。**



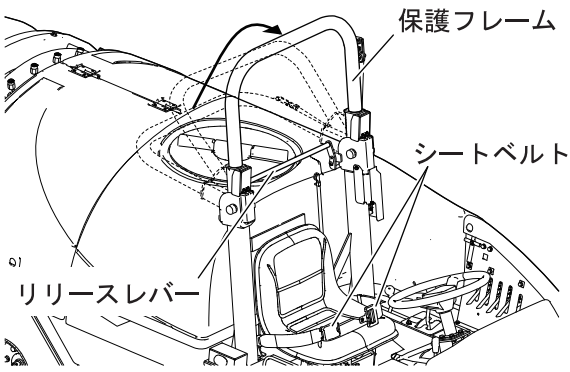
保護フレーム：転倒転覆したときに、搭乗者の傷害を軽減する効果があります。

- 保護フレームを動かすときは、停車し駐車ブレーキをかけ、主変速を N、副変速を低速にしてください。

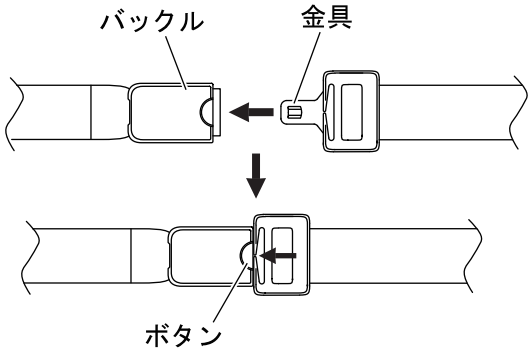


- ヒンジ内部に給油禁止。

2. 各部の名称と取り扱い



- 保護フレームを起こすときは、保護フレーム上部を前上方に止まるまでゆっくり持ち上げてください。
- 保護フレームを起こしたときは、保護フレームをゆすって固定されたことを確認してください。ガタが大きいときは、リリースレバーを一度運転席側に引いてください。ガタが減らない場合は整備してください。
- 保護フレームを倒すときは、リリースレバーを運転席側にいっぱいに引き保護フレーム上部を後ろへ、止まるまでゆっくり押し下げてください。
- 保護フレームを倒しているときは、副変速を高速にできません。また、副変速が高速のときは、保護フレームを倒すことができません。

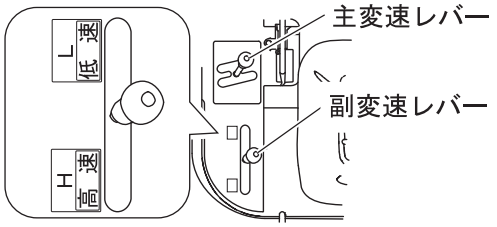


シートベルト

- シートに座り、ねじれをなくしたベルトを腰骨にかけバックルに金具を差し込み、長さを調節してベルトの弛みをとってください。余分に出たベルトが操作レバーに引っかからないように注意してください。
- ベルトを外すときは、バックル中央のボタンを押し込んでください。

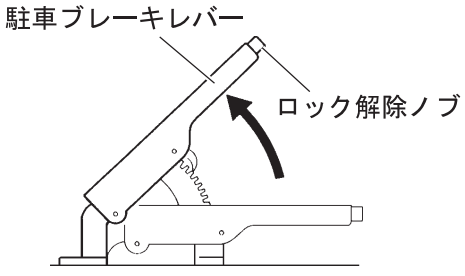
＊ 保護装備は特に、改造しないでください。役割を果たさなくなる可能性があります。

■走行操作部



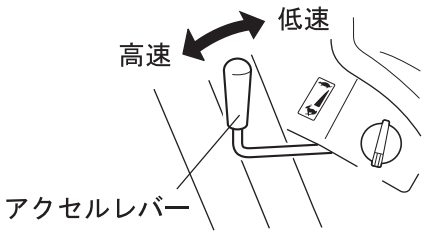
主変速レバー、副変速レバー

- 車速を変えるときに使用します。
- クラッチペダルを踏み込み、車両を停止させたのちに操作してください。
- 保護フレームを倒しているときは、副変速を高速にできません。
- 副変速を高速にする際は、保護フレームを起こしてください。



駐車ブレーキレバー

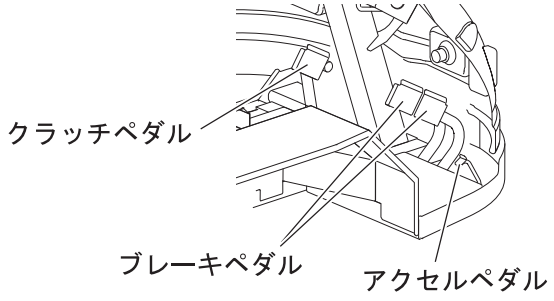
- 手前にいっぱい引くと後輪がロックします。
- ブレーキペダルを踏み込み、車両が停止していることを確認してから、ブレーキペダルを踏み込んだまま駐車ブレーキレバーを引き上げてください。
- 車両が停止していないと後輪を確実にロックできません。
- 駐車ブレーキを解除するときは、ロック解除ノブを押しながらレバーを戻してください。



アクセルレバー

- エンジンの回転を調節します。送風機・薬液ポンプ・補給ポンプを安定して作動させるときに使用します。
- レバーを上げると低速に、下げると高速にエンジン回転が変化します。

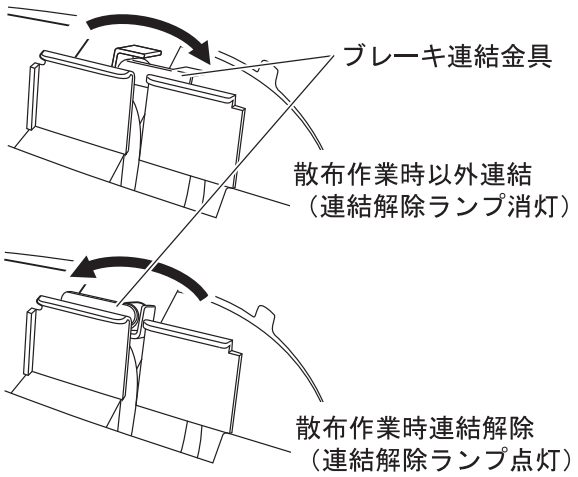
2. 各部の名称と取り扱い



アクセルペダル

- アクセルペダルでもエンジンの回転を調整できます。
- アクセルペダルを踏み込むと低速から高速にエンジン回転が上がります。

重要
❍ 送風機、薬液ポンプが作動しているときは、アクセルペダルを操作しないでください。



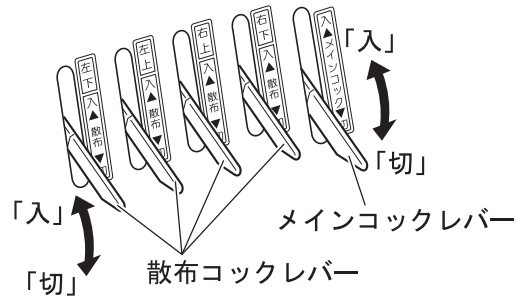
ブレーキペダル

- 車両の減速や停止、ほ場内での旋回に使用します。ブレーキペダルは左右独立しています。通常は左右のペダルをブレーキ連結金具で連結しておきます。（ペダルを連結するとブレーキ連結解除ランプが消灯します）ほ場内で小回りする場合は、ブレーキ連結金具を連結解除にして（ブレーキ連結解除ランプが点灯します）、旋回したい側のブレーキペダルを踏み込んでください。踏み込んだ側の後輪にブレーキが掛かり小回りできます。

クラッチペダル

- 踏み込むとクラッチが切れ、エンジンの動力が断たれます。クラッチペダルは踏み込むときは素早く、戻すときはゆっくり戻してください。

■散布作業操作部

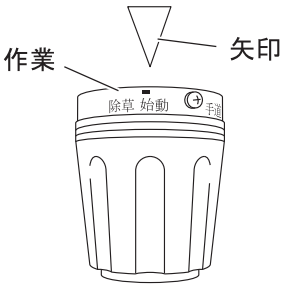


メインコックレバー

- メインコックのレバーです。メインコックまでの薬液の流れを一時的に止めたり、流したりするときに使用します。

散布コックレバー

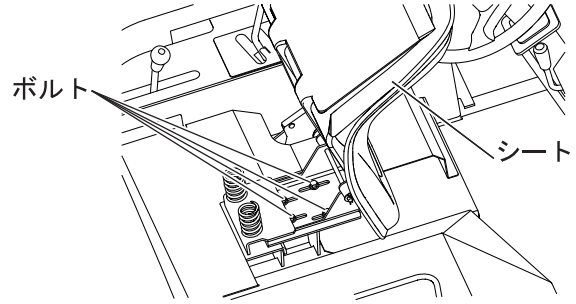
- 散布コックのレバーです。ノズルまでの薬液の流れを一時的に止めたり、流したりするときに使用します。
- 操作方法はメインコックレバーと同じです。それぞれ右下・右上・左上・左下のノズルに対して働きます。



調圧ダイヤル

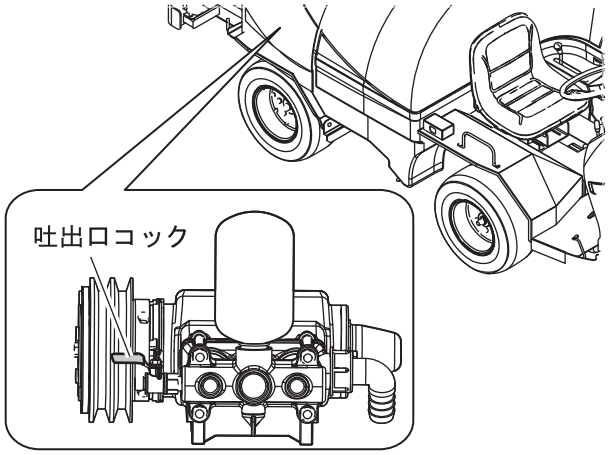
- 薬液ポンプの圧力を調整するダイヤルです。
- 作業と矢印の位置を合わせます。

■その他



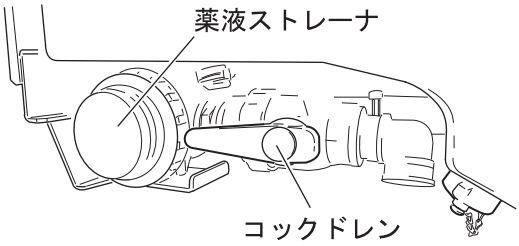
シート

- ボルト（4 個）を緩めて、シートの位置を前後に調節できます。体格にあわせて調節してください。
- 調節後は、ボルト（4 個）を締めて、シートを固定してください。



吐出口コック

- 補正散布をする際に使用します。エンジンカバーを閉じた状態で使用してください。



コックドレン

- 散布、清掃、排水をする際に使用します。

3. 作業の準備

3-1. 運転前点検

⚠ 警告

❍ **安全作業のため、38 ページの日常点検作業表を参照して、運転前に点検をしてください。**
整備不良のまま使用すると事故や重傷を負う原因となります。

3-2. 燃料の準備

⚠ 危険

❍ **エンジンを停止し、エンジンが冷えてから燃料キャップを取り外し、燃料を補給した後は燃料タンクのキャップを確実に締付てください。**
❍ **燃料を補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。**
燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負ったりすることになります。



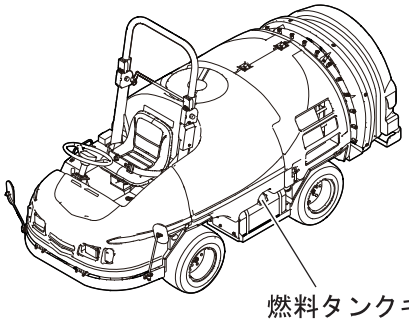
⚠ 警告

❍ **ポンプで燃料容器に軽油を移すときは、容器を地面に置いてください。**
❍ **容器に燃料を移している間は、ホースのノズルを容器の側面に固定してください。**
静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。
❍ **燃料タンク口元まで補給しないでください。**
❍ **燃料をこぼさないように注意して、こぼれたら拭き取ってください。**
❍ **燃料タンクや燃料ホースから燃料の漏れやにじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**
❍ **軽油を洗浄剤として使用しないでください。**
❍ **燃料は換気のよい場所で保管してください。**
燃料に引火して火災や火傷の原因となります。

重要

❍ この製品の燃料は軽油です。次の軽油を気温に応じて使用してください。
- JIS2 号 :-5 ℃以上
- JIS3 号 :-15 ℃以上
- JIS 特 3 号 :-25 ℃以上

❍ 上記以外の燃料を使用しないでください。次の原因となります。
- この製品は排出ガス規制適合品だが、排出ガス規制適合外となる
- 不正軽油規制の罰則がある地域では、重油・灯油またはこれらを軽油に混ぜた燃料を使用すると処罰の対象となる
- 重油・灯油・アルコールなどが混ざった燃料や劣化した燃料を使用すると、エンジン出力・始動性の低下、部品の摩耗・腐食、エンジンオイル・燃料フィルタ・燃料パイプなど早期劣化によりエンジンが故障する



燃料の給油

- 燃料タンクは左側の薬液タンク下にあります。
- 軽油の中に水分やゴミが入っていると、エンジン不調の原因となるので、きれいな軽油を使用してください。

3. 作業の準備

3-3. エンジンの運転

⚠ 警告



- **エンジンの排出ガスには、有毒な成分が含まれています。屋内など通気の悪い場所ではできるだけ運転しないでください。**
- **車両の移動のためにやむを得ず始動するときは窓や戸を開けて換気をして、始動後は速やかに屋外に移動してください。屋内で暖機や長時間の運転をしないでください。**

中毒事故の原因となります。

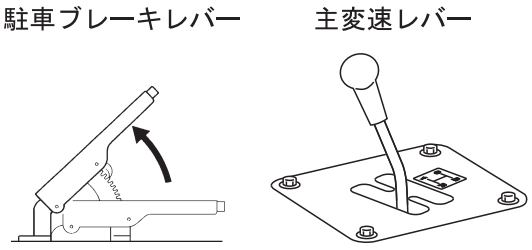
⚠ 注意

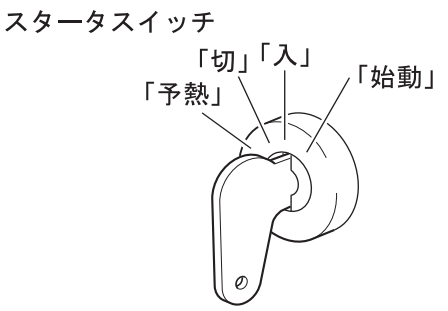
- **駐車ブレーキが掛けてあり、主変速レバーが「N」の位置にあることを確認してください。**
- **送風機・薬液ポンプを「切」の状態にしてください。**
- **運転前に周囲の安全を確認してください。**

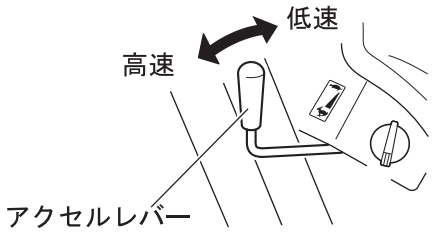
事故の恐れがあります。

重要

- 始動安全装置が付いているので、クラッチペダルをいっぱいに踏まないとエンジンは始動しません
- 送風機スイッチ・薬液ポンプスイッチどちらか一方でも「入」の場合はキーを「始動」にしてもセルモータが回らず警告のためホーンが鳴ります。送風機スイッチ・薬液ポンプスイッチどちらか一方でも「入」の場合はキーを「始動」にしてもセルモータが回らず警告のためホーンが鳴ります







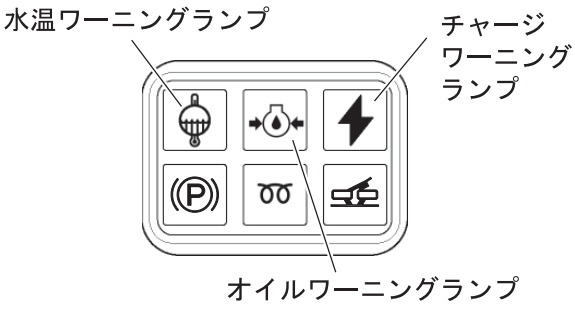
運転前点検終了後に次の手順で始動してください。

1. 駐車ブレーキを掛け、主変速レバーを中立（N）、薬液ポンプスイッチ・送風機スイッチを共に「切」にしてください。
2. スタータスイッチにキーを差し込みます。「切」でのみキーが抜き差し出来ます。
3. キーを「予熱」にするとグロープラグが赤熱します。通電中はグローランプが点灯します。（消灯するまで約３秒かかります）
4. グローランプ消灯後、アクセルレバーを手前に引きブレーキペダルを一杯に踏み込んでキーを「始動」にするとセルモータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を放してください。キーが「入」に戻ります。
5. エンジン始動後、アクセルレバーを「低速」に戻し５分間暖機運転を行ってください。

＊ セルモータを 10 秒以上連続して回さないでください。エンジンが始動しなかった場合は、セルモータとエンジンが完全に停止してから、再度エンジン始動を試みてください。

＊ エンジン運転中はキーを「始動」にしないでください。

3-4. エンジン運転中の点検



計器、警告灯の表示、振動、異音、排気音、臭気、排気色などを調べます。

充電状態および潤滑油圧力

- オイルワーニングランプとチャージワーニングランプはスタータスイッチを「入」にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
- スタータスイッチを「入」にしても点灯しない、またはエンジン始動後に消灯しないときは、直ちにエンジンを停止し点検・整備をしてください。

冷却水温

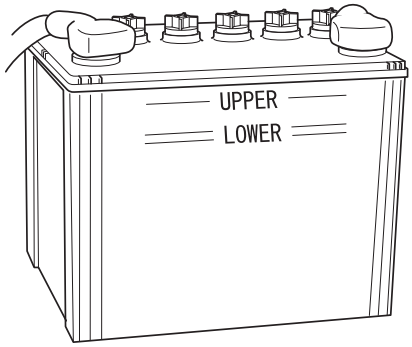
- 水温は高くても低くてもエンジンの調子が悪くなります。特に水温が低いと、燃料消費量が多くなるので十分に暖機運転をしてください。また、オーバーヒートあるいは水温が上がらない場合はラジエータの汚損や水量の点検をしてください。

3-5. エンジンの停止



1. アクセルレバーを「低速」にしてエンジンの回転を下げてください。
2. スタータスイッチを「切」にしてエンジンを停止してください。

3-6. 寒冷時の始動と点検



エンジンの始動

- 始動方法は 18 ページの「エンジンの運転」を参照してください。エンジン始動後は十分に暖機運転をしてください。

冷却水の凍結に注意

- 冷却水に水を使用すると、凍結してシリンダボディやヘッドを破損する恐れがあるので、適切な濃度のロングライフクーラントまたは不凍液を使用してください。

バッテリ充電状態に注意

- 低温になると、バッテリの起電力が低下するので、バッテリの点検を励行し、常にバッテリを完全充電状態に保つようにしてください。

エンジンの冷えすぎに注意

- エンジンの冷えすぎは熱効率が低下します。十分に暖機運転をしてください。

4. 車両の運転

⚠ 危険

❍ **車両を運転するときは、次のことを守ってください。**



- **運転席以外の場所に乗らない**
- **運転者以外の人を乗せない（乗車定員は１名）**
- **飛び降り、飛び乗りをしない**
- **急発進、高速急旋回をしない**
- **坂道の途中でクラッチや変速レバーの操作をしない**
- **テラス式（等高線方式）の道路の路肩は崩れやすいので、十分に気をつけて走行する**
- **危険を感じた場合はすぐに運転を中止し、エンジンを停止する**
- **ヘルメットを被る**

⚠ 警告

❍ **車両のミラーには死角があります。車両の前後に人や障害物がないか直接自分の目で確かめてください。**

❍ **燃料や農薬が入った容器やスプレー缶などを積まないでください。**

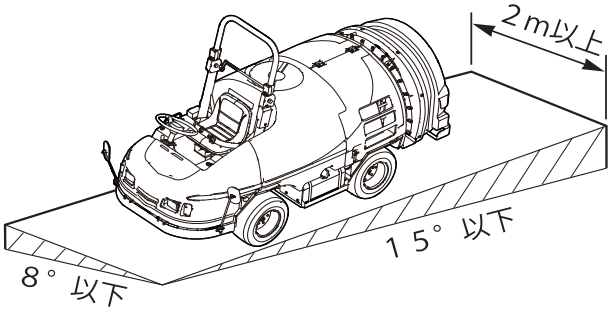
事故の原因となります。

❍ **乗車中にタバコを吸わないでください。**

火災の原因となります。

❍ **ほ場へ出入りするときは、あらかじめ変速レバーを「低速」にして、勾配方向と車両の向きを合わせてゆっくり走行してください**

斜め進入は転倒事故の原因となります。



❍ **運転席の足元付近に物を置かないでください。**

物がペダルの下にはさまり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりして、事故の原因となります。

❍ **高速走行時に片側だけのブレーキペダルを絶対に踏み込まないでください。急旋回して非常に危険です。作業時以外は、左右のブレーキペダルをブレーキ連結金具で確実に連結しておいてください。**

転倒事故や重傷・死亡事故の原因となります。

❍ **路肩が崩れたり、タイヤが浮いたりしないように走行路を整備してください。**

転倒事故や重傷・死亡事故の原因となります。

重要

❍ この製品は小型特殊自動車です。公道を走行するしないにかかわらず、小型特殊自動車取得の届け出をしてナンバープレートの交付を受けてください。

＊ 販売店または農協が発行する小型特殊自動車販売証明書と小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。市町村により手続きが多少異なるので詳しくは販売店または農協にご相談ください。

❍ 交付されたナンバープレートをナンバープレート取り付け板に取り付けてください。

❍ この製品は小型特殊車両として保安基準に適合しています。国土交通省に届け出をした部品以外を装着したり、部品を取り外したりすると違法改造となることがあります。

❍ 公道を走行する際には普通免許が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。

❍ 道路交通法を守って安全に走行してください。

❍ 夜間はライトを点灯し、十分に気をつけて走行してください。

4-1. 発進の方法

⚠ 注意

❍ **発進する前に、周囲の安全をよく確認してください。**

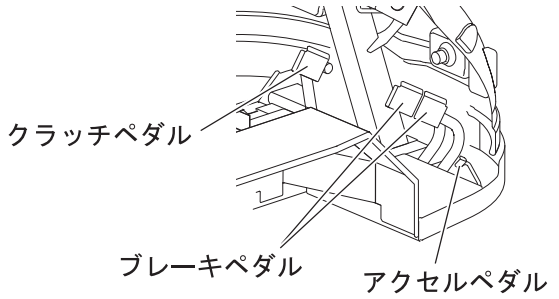
❍ **後退時は特に車体の死角になる部分を降りて確認し、低速で移動してください。**

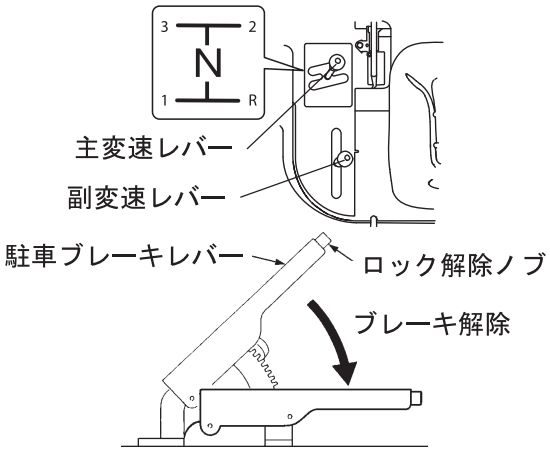
事故の恐れがあります。

4. 車両の運転

重要

- 副変速が高速のときにアクセルレバーを引いた状態（エンジン高回転）での発進は、機械の故障の原因となります。
- 駐車ブレーキを掛けた状態で発進すると、ミッション、プロペラシャフトやブレーキなどが故障することがあるので、駐車ブレーキを解除して発進してください。





車両の寿命や維持費は、扱い方（特に運転操作のしかた）により異なってきます。

1. 正しい運転姿勢がとれるように、シート位置を調整してください。
2. サイドミラーの角度を調整し後方を確認してください。
3. 樹木や建造物に干渉する場合、輸送時を除き、保護フレームを起こしシートベルトを装着してください。
4. クラッチペダルを踏んでください。
5. 作業内容に合った速度を選び、主変速レバー、副変速レバーを操作してください。
6. 駐車ブレーキを解除してください。
7. アクセルレバーでエンジン回転を調整してください。（アクセルペダルを踏み込んでもエンジン回転は上がります。）
8. クラッチペダルをゆっくり戻し、車両が動き出したら、クラッチペダルから足を放してください。（クラッチは無駄に長い間滑らせないでください。）
9. 副変速レバーを「高速」にして発進するときは、急発進しないように、アクセルペダルでエンジン回転を調整してください。

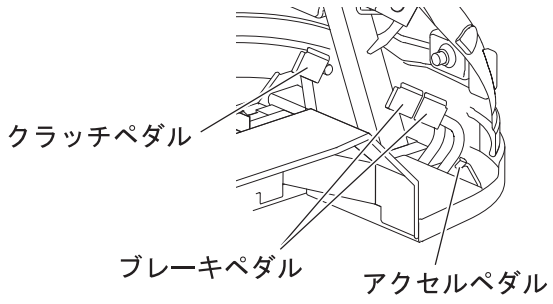
保護フレームの状態	副変速レバー		
起きている	高	選択可	どの速度も選択可能
	N	選択可	
	低	選択可	
倒れている	**高**	**選択不可**	高速走行のみ不可
	N	選択可	
	低	選択可	

4-2. 走行中の注意

⚠ 注意

- **移動走行時は速やかに減速できるよう、アクセルペダルを使用してください。**

  事故の恐れがあります。



- 発進した後に必ずブレーキの作動を確認してください。
- ブレーキは左右とも確実に効き、連結金具を外して左右のブレーキペダルを別々に踏み込んだとき、左右のペダルの踏み込み量が同じになることを確認してください。
- クラッチが確実に接続し、滑らないことを確認してください。
- 散布作業時に小回りしたいときは、ステアリングをいっぱいに切り、クラッチを切らずに（駆動したままで）曲がりたい方のブレーキを踏み込んで旋回してください。
- 車速の関係から大きな減速比を採用しているので、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
- クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、確実にギヤが入ったことを確認して、変速操作をしてください。

4-3. 坂道の走行

⚠ 警告

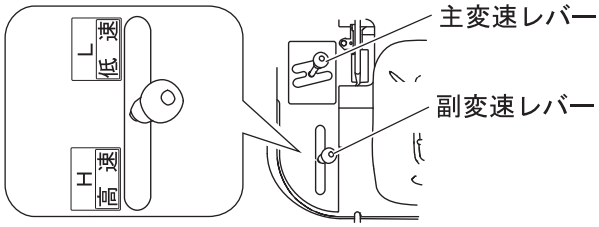
❍ 下り坂ではエンジンを停止したまま走行しないでください。

エンジンが停止すると電動パワーステアリング装置が作動しないので、ステアリング (ハンドル) が重くなり、衝突や転落などの事故になることがあります。

❍ 車両を停止させてから変速レバーを操作してください。

❍ 坂の途中でクラッチペダルを踏んだり、変速レバーを操作したりしないでください。

事故の原因となります。



- 坂道では前もって副変速レバーを「低速」にしておき、ゆっくり走行してください。

4-4. 車両の停止

⚠ 警告

❍ 乾燥した草やワラなど、燃えやすい物が堆積した場所に車両を乗り入れたり、駐停車したりしないでください。

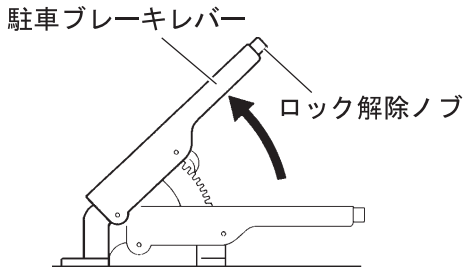
❍ 不安定な場所や傾斜地に駐車しないでください。

火災や事故の原因となります。

重要

❍ 車両から離れるときはキーを抜き保管してください。

4. 車両の運転



1. アクセルレバーを戻して低速にしてください。
2. ブレーキペダルとクラッチペダルを同時に踏み、車両を停止させてください。停止後もペダルは踏み続けてください。
3. 主変速レバーを「N」にし、クラッチペダルから足を放してください。
4. 駐車ブレーキを掛けてください。その後ブレーキペダルから足を放してください。
5. 薬液ポンプや送風機のスイッチが入っている場合は、スイッチを切ってください。
6. 冷却運転を 2 ～ 3 分した後、スタータスイッチを「切」にしてエンジンを停止してください

4-5. 電動パワーステアリングの取り扱い

⚠ 警告

❍ ステアリング操作はエンジンをかけてから行ってください。

エンジン停止（スタータスイッチ「切」状態）では電動パワーステアリングが動かなくなり、ステアリング操作が重くなり、衝突や転落などの事故につながることがあります。

重要

電動パワーステアリングコントローラ、モータは防水構造ではありません。水、農薬の付着に注意してください。高圧洗浄は絶対に行わないでください。

この車両は電動パワーステアリングを装備していますので、ステアリングを軽く操作できますがステアリングを操作するときは次の点に注意してください。

取扱のポイント

- ステアリング操作は、エンジンをかけてから行ってください。
- 電動式のため　スタータスイッチ「入」位置で大量の電力を消費しますので、バッテリ上がりに注意してください。（バッテリ電圧が低下するとステアリング操作が重くなります）
- 頻繁にステアリングをいっぱいに切る操作を行うと、モータ、コントローラ保護のためにステアリングが重くなることがあります。（温度が下がると回復します）その状態の時、モータ、コントローラが熱くなっています。火傷の恐れがありますので注意してください。
- 車両の改造により電動パワーステアリングコントローラが影響を受け　不具合が発生することがあります。修理時保証対象外となりますのでモータ、コントローラは分解しないでください。
- バッテリの電圧が低い（10V 以下）場合、電動パワーステアリングへの電源供給が停止してステアリングが重くなることがあります。異常を感じた場合はバッテリ電圧を確認してください。
- エンジン停止後に、バッテリターミナルを直ぐに外さないでください。電動パワーステアリングコントローラのプログラムが初期化されてしまう場合があります。バッテリターミナルを外す場合、エンジン停止後は充分な時間（15 秒以上）を置いてからターミナルを外してください。

電動パワーステアリングの特性により故障と間違える症状があります。

症　状	EPS 警告ランプ	車両の操作	原　因	対　応
ステアリング操作重い	点灯なし	ステアリング操作が多い長時間すえぎり	発熱保護制御状態	ステアリング操作せずに放置
		ー	バッテリ容量不足	充電又は、交換
ステアリング操作力のバラツキ	点灯なし	車両にダメージ伴う軽い事故など	ステアリング機構の操作力が一定でない。	車両修理
パワーステアリングが効かない	点灯	ー	ハーネス不良	コネクタ等点検
	点灯なし	ー	ヒューズの切れ	ヒューズ交換
		ー	パワーステアリングコントローラの初期化	車両修理
ステアリング操作時ライトが暗くなる	点灯なし	ステアリング操作	バッテリ容量不足	充電または交換

4-6. 車両の運搬

⚠ 警告

❍ 車両を運搬するときは、次のことを守ってください。

- **誘導者をつけて、車両姿勢の急変に注意させ、的確な指示を出させる**
- **トラックなどへ積み下ろしをする時は保護フレームを起こす**
- **急発進をしない**
- **アユミ板上で変速、進路変更、クラッチ操作をしない**
- **片ブレーキ付の車両では必ず連結金具でブレーキペダルを連結する**

転倒・転落などの事故の原因となります。

⚠ 注意

❍ 車両を運搬するときは、次のことを守ってください。

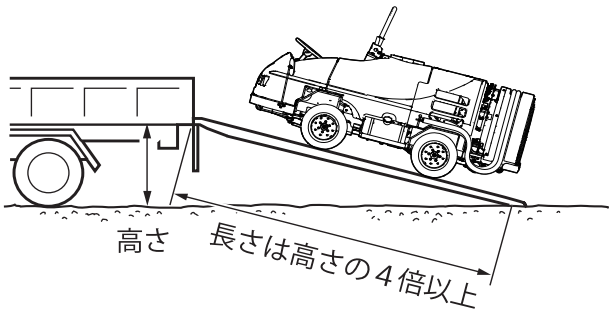
- **最大積載量、荷台寸法を確認し、過積載、オーバーハングにならないトラックを使用する**
- **平坦地で、トラックのエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛ける**
- **誘導者を車両の進行方向の直前、直後に立たせないで、車両や、アユミ板の状態がよく見え、運転者に的確な指示ができる位置に立たせる**

転倒・転落などの事故の恐れがあります。

❍ 車両をトラックに積み降ろしするときは、次のことを守ってください。

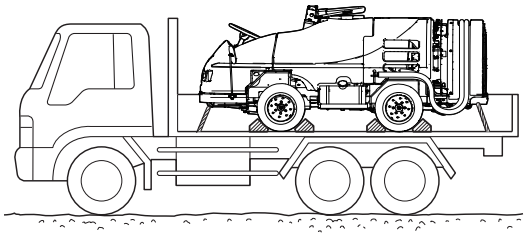
- **作業に関係のない人を近づけない**
- **薬液タンクを空にする**
- **アユミ板は十分な強度 (1 枚当たり耐荷重 750 kg 以上) で滑り止めが付き､幅 30 cm 以上のものを使用する**
- **アユミ板の長さが地上からトラック荷台床板までの 4 倍以上のものを使用する**
- **作業途中でエンジンが停止したときは、ブレーキペダルを強く踏み、その後すこしずつブレーキを緩めて平坦地まで降す**

火災や事故の恐れがあります。



車両を積むとき

1. 保護フレームを起こす。
2. 主変速を「１速」、副変速を「低速」にする。
3. 十分に車速を落として、前進でアユミ板を登る。
4. 荷台に乗った後、主変速を「１速」または「R」に、副変速を「低速」にし、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛ける。
5. タイヤに輪止めを掛け、ロープでトラック荷台に固定する。
6. 移動走行予定の順路で樹木や建造物に干渉する場合、法規に違反する場合は保護フレームを倒す。(一般的な2トントラックに本製品を積載した場合の高さは約 2.8m 通常、道路の全高制限は 3.8m です)



車両を降ろすとき

1. 保護フレームを起こす。
2. 主変速「R」、副変速「低速」にする。
3. 後進でゆっくりとアユミ板を降りる。

5. 散布作業

⚠ 警告

❍ 農薬を使用するときは、次のことを守ってください。



- **法令を遵守して農薬を使用する**
- **製品ならびに農薬の知識を持たない人は、農薬を使用しない**
- **農薬が目に入らないように注意する**
- **農薬の種類によっては、かぶれを生ずるときがあるので注意する**
- **かぶれやすい人は、使用を控える**
- **農薬が目に入ったときは、すぐに水洗し、眼科医の手当てを受ける**
- **誤って飲み込んだときは、吐き出し、すぐに医師の手当てを受ける**
- **体に異常を感じたときは、すぐに医師の診察を受け、使用していた農薬の種類を告げる**



- **防除対象作物以外への飛散がないよう環境へ配慮する**
- **農薬は残らないよう調製し、必ず使い切る**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいと洗眼をする**
- **子供の手が届かない場所に農薬を保管する**

農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。

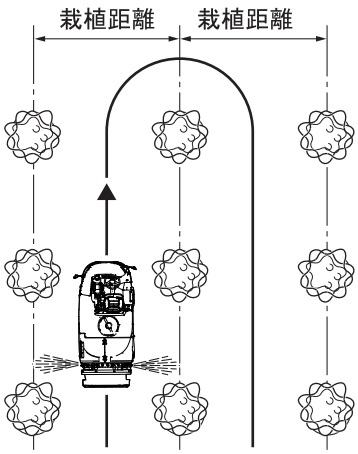
⚠ 注意

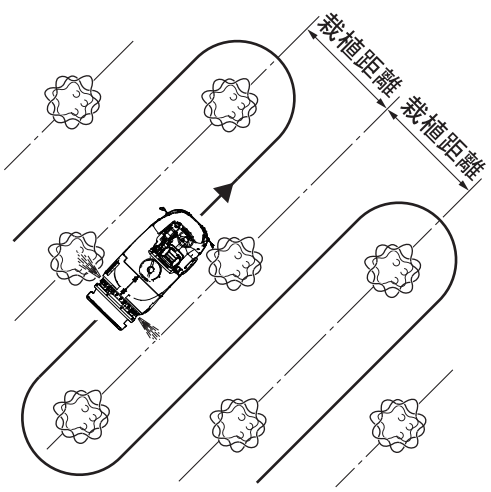
❍ 農薬を使用するときは、次のことを守ってください。

- **農薬ラベルをよく読み、記載されている事項を確認してから農薬を使用する**
- **農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れない**

薬害事故の恐れがあります。

5-1. 散布計画





薬液の散布前に、あらかじめ綿密な計画と手順を決めることが必要です。

- 散布する薬剤の種類と散布量を決めます。
- 木の栽植距離によって散布幅を決めます。
- 両側散布か、片側散布かを決めます。
- 木の大きさ、葉の茂り具合や風の強さや方向によってノズルの種類、案内板の向きと位置、走行道順を選定します。

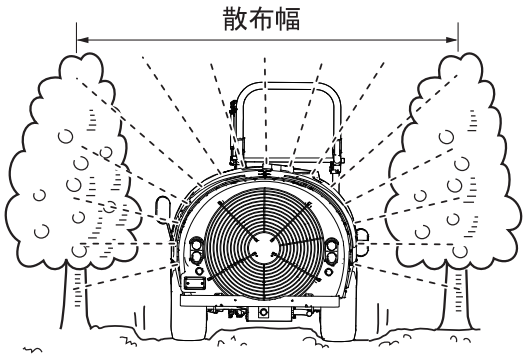
これらの条件をよくまとめてから、次の散布諸元を決定します。

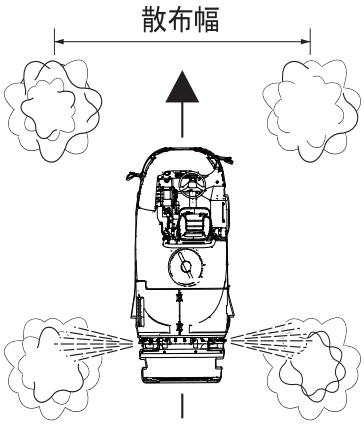
散布諸元

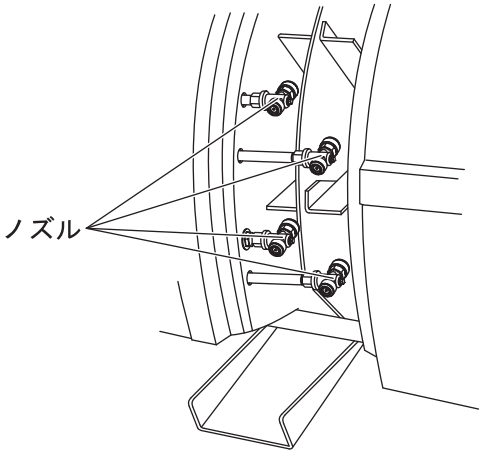
散布量：L/10a（リットル / 10 アール）

- 散布対象となる病害虫の種類と使用する薬剤の濃度、種類などから散布量を決めます。

5. 散布作業







散布幅：m（メートル）

- 各列ごとの樹間散布のときは栽植距離を散布幅とします。
- 片側散布では散布幅は栽植距離の 1/2 となります。

走行速度：km/h（キロメートル / 時）

- 散布に最も適切な走行速度は、送風性能と樹形整枝の状況などから決めます。速度を遅くすると薬液の到達・浸透性は大きく、早くすると小さくなります。従って果樹の葉の繁茂状態に合わせ走行速度を変化させて、最も効果的な走行速度を決めることが必要です。通常 1 ～ 3 km/h が適正な散布走行速度の範囲です。

散布走行速度は次の計算式で算出します。

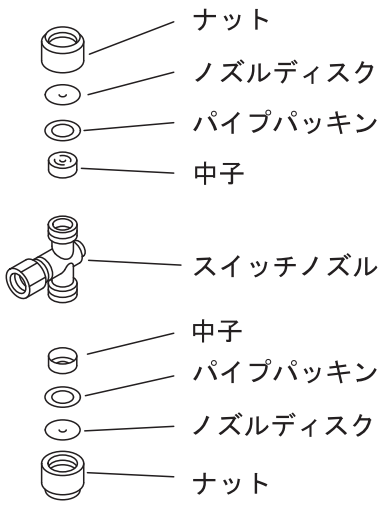
散布走行速度 (km/h)

$$\text{散布走行速度 (km/h)} = \frac{\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} \times 60}{\text{散布幅 (m)} \times \text{ 散布量 (L/10 a)}}$$

ノズル設定値（総噴霧量）: L/min（リットル / 分）

- ノズル総噴霧量とは配置した全ノズルから毎分噴霧する総量です。使用するノズルの種類、および個数から算出します。
- ノズルの配置は散布の対象となる樹形、整枝の状況によって変わるので、平均して薬液が付着するよう密生している部分には噴霧量の多いノズルを配置する。
- ノズル総噴霧量はノズル性能表を使って算出してください。
- 薬液ポンプの標準圧力は 1.5 MPa(15 kgf/cm^2) です。ノズル圧力 1.5 MPa(15kgf/cm^2) のノズル性能表を読んでください。
- ノズル総噴霧量がノズル最大噴霧量を越えないように設定してください。

5. 散布作業



ノズルの選択

- 本機のノズルはノズルディスクと中子を組み合わせて使用してください。
- 噴霧量を変える時にはノズルディスクを、噴霧角度を変える時には中子を変更してください。

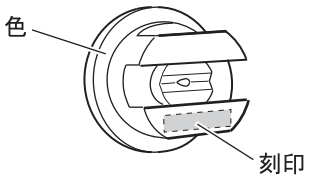


中子は 3 種類あります

2 ホール
拡散型（霧が細かく噴霧角度が大きい。広範囲にわたり均一な散布）

セミ 3 ホール
中間型（2 ホールと 3 ホールの中間の噴霧が可能）

3 ホール
直進型（噴霧角度が狭く直進力に優れ浸透性、到達性が高い）



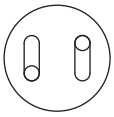
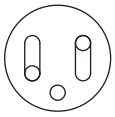
やまびこノズル

- オプションのやまびこノズルを使う際は、30 ページの「ノズル性能表（やまびこノズル 1 個当りの噴霧量）」を参照してください。

5. 散布作業

●ノズルには次の種類があります。各ノズルディスクと中子の組合せ噴霧量は次の通りです。

ノズル性能表（中子とノズルディスク組合せによるノズル１個当りの噴霧量）

ノズル圧力	ノズル穴径	2 ホール（拡散型） 		セミ 3 ホール（中間型） 		3 ホール（直進型） 	
MPa (kgf/cm^2)	mm φ	噴霧量 L/min	拡散角度	噴霧量 L/min	拡散角度	噴霧量 L/min	拡散角度
1.0 (10)	0.8	0.7	45°	0.9	30°	1.0	20°
	1.0	1.0	45	1.3	30	1.5	20
	1.2	1.3	50	1.8	35	2.3	25
	1.4	1.7	55	2.5	40	3.3	30
	1.6	1.9	60	2.9	45	4.1	35
	1.8	2.3	63	3.6	48	5.4	40
	2.0	2.5	65	4.1	50	5.8	45
	2.2	2.9	70	4.7	55	7.1	48
	2.4	3.1	75	5.1	60	7.5	50
	2.8	3.8	85	6.1	70	8.9	60
1.5 (15) (標準)	0.8	0.8	45	1.0	30	1.2	20
	1.0	1.3	45	1.6	30	1.9	20
	1.2	1.7	50	2.3	35	2.8	25
	1.4	2.1	55	3.0	40	4.0	30
	1.6	2.5	60	3.7	45	5.1	35
	1.8	2.8	63	4.5	48	6.5	40
	2.0	3.2	65	5.1	50	7.3	45
	2.2	3.5	70	5.8	55	8.7	48
	2.4	4.1	75	6.4	60	9.3	50
	2.8	4.9	85	7.7	70	11.1	60
2.0 (20)	0.8	0.9	45	1.1	30	1.3	20
	1.0	1.5	45	1.9	30	2.2	20
	1.2	1.9	50	2.7	35	3.3	25
	1.4	2.4	55	3.5	40	4.7	30
	1.6	2.8	60	4.3	45	5.9	35
	1.8	3.3	63	5.0	48	7.4	40
	2.0	3.7	65	5.9	50	8.5	45
	2.2	4.1	70	6.5	55	9.9	48
	2.4	4.6	75	7.5	60	10.9	50
	2.8	5.5	85	8.9	70	12.9	60

5. 散布作業

ノズル性能表（やまびこノズル１個当りの噴霧量）

ノズル型式		KDN S1	KDN S2	KDN S3	KDN S4	KDN S5	KDN S6	KDN S7	KDN S8
ノズル色		緑	黄	青	橙	灰	茶	黒	赤
ノズル刻印		S5023	S5030	S5038	S5049	S7018	S7021	S7029	S7037
噴霧量		L/min							
ノズル圧力	1.0(10)	1.9	2.5	3.1	4.0	1.5	1.7	2.4	3.0
MPa	1.5(15)	2.3	3.0	3.8	4.9	1.8	2.1	2.9	3.7
(kgf/cm^2)	(標準)								
	2.0(20)	2.7	3.5	4.4	5.7	2.1	2.4	3.4	4.3
拡散角度		50	50	50	50	70	70	70	70

❍ ノズル総噴霧量は次の式で計算してください。

$$\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} = \frac{\text{散布速度 (km/h)}\times\ \text{散布幅 (m)}\times\ \text{散布量 (L/10a)}\times\ \text{ほ場係数 (0.8 〜 1.0)}}{60}$$

散布計画例

散布量 200 L/10 a　防除暦などからの 10 a 当たりの散布量

散布幅 5.4 m　樹間距離などから決まります。（片側散布の場合は 1/2 となります。）

散布速度 2.0 km/h　機種型式・対象作物によって変わります。

ほ場係数 0.8　ほ場条件により選定します。

- 0.8：ぬかるみ、旋回が多いなど、悪条件が重なる場合
- 1.0：草生地、標準的なほ場

♦10 a 当たり散布量は次の式で計算してください。

$$\text{10 a 当たり散布量 (L/10 a)} = \frac{\text{ノズル総噴霧量 (L/min)}\times 60}{\text{散布幅 (m)}\times\ \text{散布速度 (km/h)}\times\ \text{係数 (0.8 〜 1.0)}}$$

❍ ノズル総噴霧量の計算例

$$\text{ノズル総噴霧量 (L/min)} = \frac{2.0\ (\text{km/h})\times 5.4\ \text{m}\times 200(\text{L/10 a})\times\ 0.8}{60} = 28.8\ \text{L/min}$$

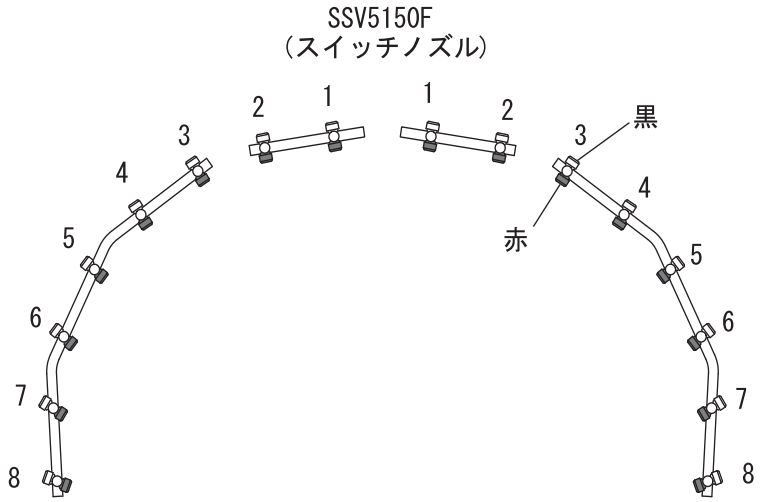
ノズル圧力 1.5 MPa ($15kgf/cm^2$) で散布するときのノズル組み合わせを下に示します。

中子	ノズル穴径（mm）	個数	吐出量（L/min）
2 ホール	1.0φ	2	2.6
2 ホール	1.2φ	4	6.8
2 ホール	2.0φ	2	6.4
ノズルプラグ		4	
S3 ホール	1.0φ	2	3.2
S3 ホール	2.0φ	2	10.2
合計		16	29.2

不要なノズルにはノズルプラグを使用してください。このような方法でノズルの組合せを求めます。

5. 散布作業

ノズル配列 （標準状態）



散布量表【スイッチノズル (キャップ)】

色別	ノズル No.		1	2	3	4	5	6	7	8	両側噴霧量合計
黒	噴頭	ノズル	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	ﾌﾟﾗｸﾞ	ﾌﾟﾗｸﾞ	(L/min)
		中子	2	2	S3	S3	2	2	2	2	
	噴霧量	1.0MPa	1.3	1.3	1.8	1.8	1.3	1.3	0	0	17.6
		1.5MPa	1.7	1.7	2.3	2.3	1.7	1.7	0	0	22.8
		2.0MPa	1.9	1.9	2.7	2.7	1.9	1.9	0	0	26.0

色別	ノズル No.		1	2	3	4	5	6	7	8	両側噴霧量合計
赤	噴頭	ノズル	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	(L/min)
		中子	S3	S3	S3	S3	S3	S3	S3	S3	
	噴霧量	1.0MPa	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	46.4
		1.5MPa	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	59.2
		2.0MPa	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	68.8

5-2. 薬液散布の方法

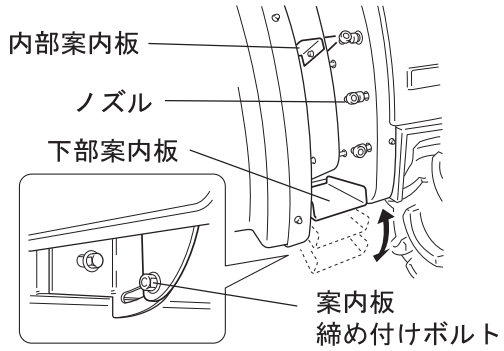
⚠ 警告

❍ 農道および散布道は幅 2 m 以上確保します。
転倒・転落などの事故の原因となります。

重要

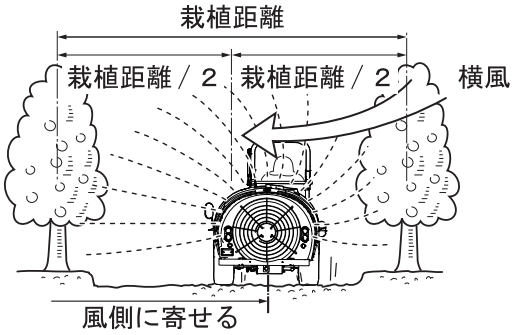
❍ 風のないとき（早朝や夕方など）に散布すると薬液の到達距離が増します。

5. 散布作業



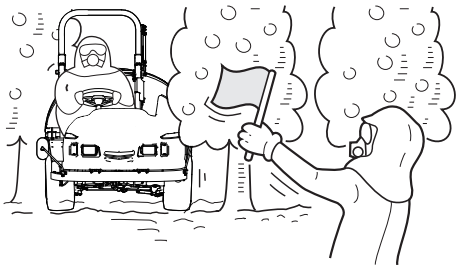
案内板の調整

- 噴頭には内部案内板と下部案内板があります。
- 内部案内板は、棚造りや盃状樹などの散布で上方に出る風を弱めたり、左右に分けたりしたいとき、樹形に合わせて使用します。調整するときは、スパナで案内板締め付ボルトを緩めて案内板の向きを調整し、確実に締め付けてください。
- 下部案内板は噴頭から出る風を全体的に上方へ向けるときに使用します。



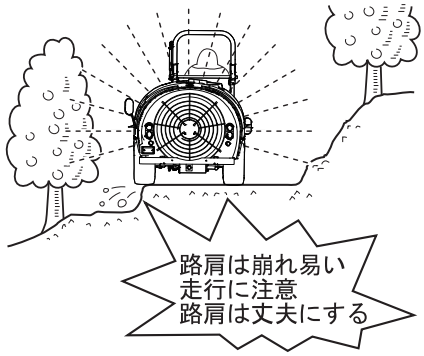
自然風に対して

- 薬液の到達性は自然風の影響で大きく変化するので、その日の気象状態をよく考えて散布速度や走行道順などを定めてください。
- 風向には向かい風、追い風、横風などの場合がありますが、横風に対しては風上に車両を寄せるようにして走行してください。



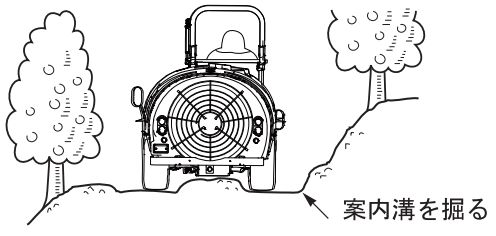
補助者

- 散布作業を二人以上でするときは、主任作業者とそれぞれの作業の専任者を決めてください。共同で作業をするときは、あらかじめ合図を決めてください。
- 視界が悪い場所では、誘導する人を決めてください。手旗などで運転者に周りの状況を伝えてください。



走行道路

- 傾斜地などのテラス式（等高線方式）の道路は、路肩が崩れやすいので注意して走行してください。
- 壌土だけの道路では、特に降雨後などスリップしたり崩れたりしやすいので、日頃砕石や砂利などを敷いて堅固にしておく必要があります。
- 草生栽培することも路面を硬くする良い方法です。この場合水はけもよくスリップの心配がありません。
- 傾斜地では高い方の路面に溝を掘り、タイヤの案内溝とすることにより安定した走行ができます。



- わだちが深くなりすぎると車両下部の損傷や、異物の巻き込みの原因となるので 10 cm 以上になったら路面を修正してください。

5-3. 薬液散布の準備

⚠ 警告

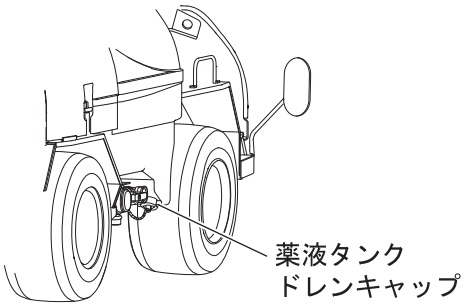
- **薬液調製の際は、飲料水源や自然河川・湖沼から直接給水しないで、専用の給水栓や薬液補給用水槽から給水してください。**
- **薬液は残らないように調製して、必ず使い切ってください。余分に作って、残液を外部に廃棄しないでください。**

  環境破壊の原因となります。



重要

- 薬液投入の際は必ずタンクこし網を使用してください。
- 石灰類を使用する際は薬液ポンプを作動させて、薬液を十分に、かくはんしてください。



薬液タンクの準備

1. 薬液タンクドレンキャップを締め付けてください。
2. コックドレンを散布方向に向けてください。

5-4. 薬液散布の操作

⚠ 警告

- **作業をする場所をよく調べ、作業関係者以外の人・動物・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**

  無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。

- **薬液の分散を防ぐため、風のない温度が安定している朝、または夕方に散布してください。**

  気温が上がると、薬液が空気中に上昇したり気化したりします。また、風に乗って予期しない方向へ薬液が飛び、薬害事故の原因となります。

- **風が強いときには散布作業をしないでください。**

  風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛ぶことがあります。

- **風上に向かって進みながら風下に散布してください。**
- **風が横から吹く場合は、風上に車両を寄せるようにして走行してください。**

  作業者側に薬液が飛ぶ原因となります。

- **散布作業中は、喫煙や飲食をしないでください。**

  タバコや飲食物に付着した農薬が、それらを介して体内に入る恐れがあります。

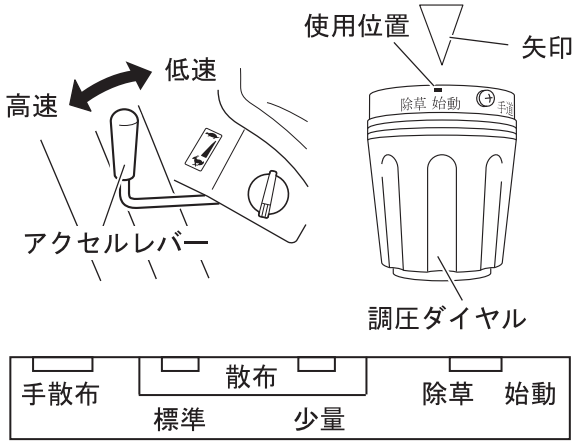
- **あらかじめ除草などの管理作業をしてください。**
- **農薬散布直後のほ場に無防備で入らないでください。**
- **薬液が乾くまでは「立入禁止」の表示を置いて、第三者の立入を禁じてください。**

  薬害事故の原因となります。

重要

- 手散布作業時以外では、調圧ダイヤルを「手散布」位置にはしないでください。
- 薬液ポンプを停止させるときは、調圧ダイヤルを「始動」の位置に戻してから、薬液ポンプスイッチを押して停止させてください。
- 5 分間以上カラ運転をしないでください。本機の薬液ポンプは自吸する薬液を圧力シールの潤滑に使用しています。5 分以上カラ運転をすると圧力シールの耐久性が劣り、故障の原因になります。

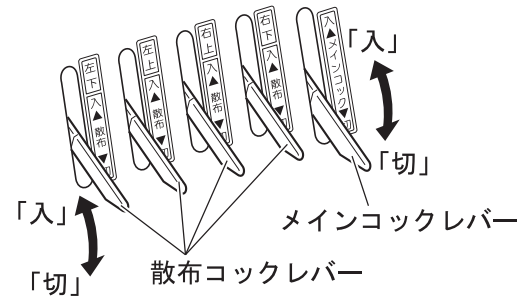
5. 散布作業



薬液散布手順

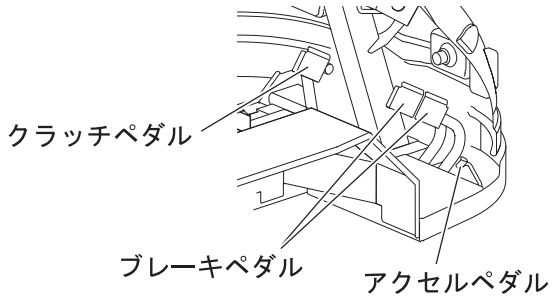
1. エンジン低速回転のまま、メインコック・散布コックが全て「閉」であることを確認し、薬液ポンプスイッチを押し、送風機スイッチを押し、「入」にします。
2. アクセルレバーでエンジン回転数を約 2,800 r/min までゆっくり上げます。
3. 薬液ポンプを始動させるときは、調圧ダイヤルを「始動」の位置に合わせてから、薬液ポンプスイッチを押してください。圧力は、調圧ダイヤルの使用したい位置を矢印に合わせて調節します。
4. クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを操作します。
5. クラッチペダルをゆっくり戻し、走行します。
6. 散布コック
   - 薬液管が右下・右上・左上・左下の４分割になっており、これに合わせて散布コックがつながっています。
   - 作業に合わせてコックを「入」にしてください。

除草剤	0.5 MPa (5 kgf/cm^2)
少量	1.0 MPa (10 kgf/cm^2)
標準	1.5 MPa (15 kgf/cm^2)
手散布	2.0 MPa (20 kgf/cm^2)



7. メインコック
   - メインコックレバーが「切」にあると、散布コックを「入」にしてもノズルからは薬液が出ません
   - 薬液管４箇所から同時に散布するときに利用すると便利です。この場合、散布コックは全部「入」にしてください。
   - 各々の散布コックを使用する場合は、メインコックを「入」にしてください。

5-5. 散布終了



1. ブレーキペダルとクラッチペダルを同時に踏み、車両を停止させてください。停止後もペダルは踏み続けてください。
2. 主変速レバーを「N」にし、クラッチペダルから足を放してください。
3. 駐車ブレーキを掛けてください。その後、ブレーキペダルから足を放してください。
4. 送風機スイッチを「切」にしてください。
5. 調圧ダイヤルを左回りに操作し、減圧してください。
6. 薬液ポンプスイッチを「切」にしてください。
7. アクセルレバーを「低速」に戻してから、スタータスイッチを「切」にしてエンジンを停止させてください。
8. 散布作業後は、必ず数分間アクセルレバー「低速」で運転をして、エンジンを十分に冷却してから停止してください。

6. 作業終了後

6-1. 清掃

⚠ 警告

❍ **平坦な場所で、エンジンを停止し駐車ブレーキを掛けて、製品が冷えてから清掃をしてください。**
火傷や事故の原因となります。

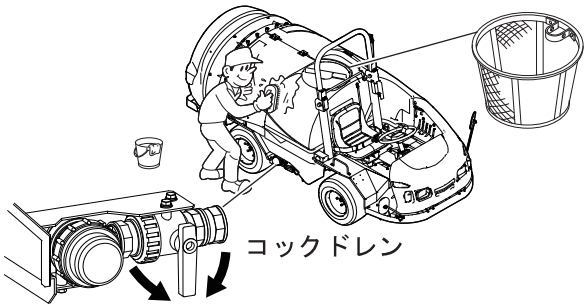
❍ **凍結防止に不凍液を使用した後に製品を使用するときは、不凍液の説明書に従って不凍液を回収してください。環境汚染を起こさないよう十分に配慮し、直接外部に廃棄しないでください。**

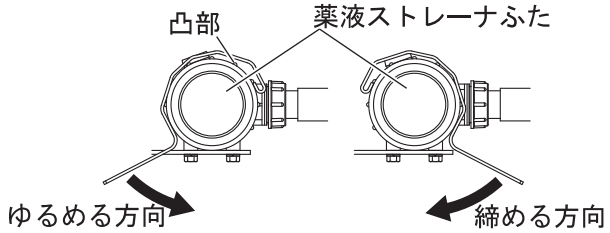
⚠ 注意

❍ **清掃する前に送風機が確実に停止し、ノズルから薬液が出ていないことを確認してください。**
❍ **エンジンを停止してからボンネットやエンジン室カバーを開けてください。作業が終わったら開けたカバー類を閉めて確実に固定してください。**
火傷や事故の恐れがあります。

重要

❍ エンジンルームは、高圧水による洗車を絶対にしないでください。水漏れや故障の原因となります。
❍ 水抜きなどで薬液ポンプの空運転をするときは、5 分間以下としてください。空運転による薬液ポンプの破損は、保証の対象外となります。
❍ 寒冷時の使用後は、凍結による破損事故を防ぐため、特に各部の水抜きは完全に実施してください。凍結による不具合は、保証の対象外となります。





1日の散布作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

洗浄運転

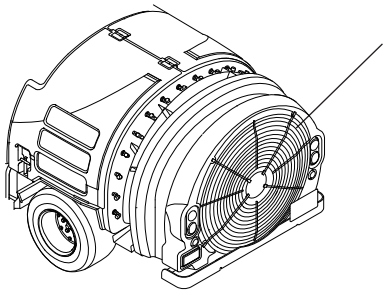
- 薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄し、車体は常に清潔な状態にしてください。
- 薬液タンクに清水を補給し散布の要領でノズルから噴霧し、薬液配管内の洗浄をしてください。
- 洗浄液は外部に廃棄しないでください。
- ノズルプラグも時々外して清掃してください。

- こし網（タンク入口こし器、薬液ストレーナ）は、薬剤の粗粒が詰まっていることが多いのでよく清掃してください。給水コックを下に向けてから、薬液ストレーナのふたにある凸部に専用レンチを掛けて取り外し、薬液ストレーナの内部を清掃します。滑ってケガをしないように注意してください。

エンジン

- エンジン冷却水は毎回排水する必要はありませんが、寒冷時に凍結の恐れがあるときは、冷却水ドレンプラグより排水してください。
- ラジエータが目詰まりすると、エンジンオーバーヒートの原因となるので、ラジエータフィンを傷めないようにして時々清掃してください。

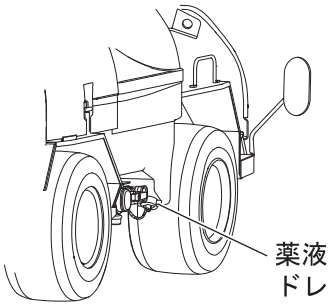
6. 作業終了後



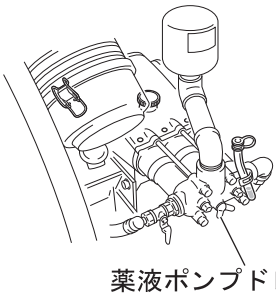
送風機の清掃

- 送風機の吸い込み口に木の葉、小枝などが付いていると、送風効果が低下するので、その都度エンジンを停止し、ファンが確実に停止していることを確認してから取り除いてください。

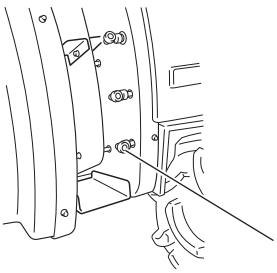
各部の水抜き



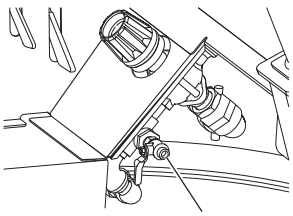
- 薬液タンクドレンキャップを外して薬液タンクの水抜きをしてください。



- 薬液ポンプドレンプラグを外して薬液ポンプの水抜きをしてください。



- 右下・右上・左上・左下の各薬液管の最下側のノズルを外して水抜きをしてください。



- 分配管は分配管ドレンコックを開いて水抜きをします。
- 凍結による破損事故を防ぐその他の方法として、ウインドウォッシャ液を配管内各部に入れる方法もあります。その場合は、水とウインドウォッシャ液の混合液を作って薬液タンクに入れ、一度薬液ポンプを運転しノズルから噴霧します。（混合液の濃度は、ウインドウォッシャ液の説明書に従って決めてください。）

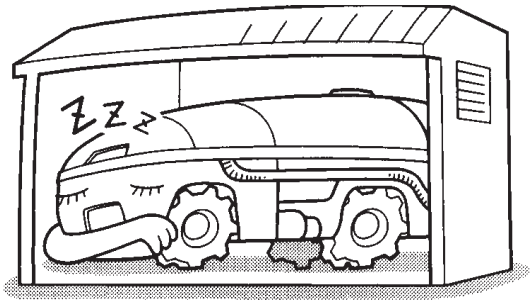
6. 作業終了後

6-2. 保管

⚠ 警告

❍ **乾燥した草やワラなど、燃えやすい物が堆積した場所に駐停車しないでください。また、このような場所に車両を乗り入れないでください。**

堆積物に引火して火災の原因となります。



- 保管する前に薬液タンク、配管、ポンプの水を抜いてください。水が残ると寒冷時に凍結し薬液タンクなどの配管部品を破損することがあります。
- スタータスイッチのキーを抜いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 以下のような場所に保管してください。

  熱、直射日光にさらされない
  湿気が少ない
  平坦である
  安定している
  子供がさわることができない
  火気がない

⚠ 警告

❍ **凍結防止に凍結防止剤を使用した場合の回収方法は凍結防止剤の説明書または、各自治体の条件に従ってください。**
❍ **薬害や環境汚染に十分配慮し、薬剤は必ず使い切ること。直接外部に放棄しないでください。**

重要

❍ **寒冷時の使用後は、凍結による破損事故を防ぐため、特に各部の水抜きは完全に実施してください。**

凍結による不具合は、保障の対象外となります。

- 寒冷時の凍結防止剤はやまびこ指定の凍結防止剤を推奨致します。

部品名称	部品番号
アンチフリーズ（20L）	E41207

7. 点検･整備

⚠ 警告

❍ **平坦な場所で、エンジンを停止し駐車ブレーキを掛けて、製品が冷えてから、点検整備をしてください。**
事故や重傷を負う原因となります。

⚠ 注意

❍ **エンジンを停止してからボンネットやエンジン室カバーを開けてください。作業が終わったら開けたカバー類を閉めて確実に固定してください。**
事故の恐れがあります。

重要

❍ 毎月、毎年の点検・整備をした日を記録してください。
❍ １年に１回以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。
❍ 補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。
❍ ロングライフクーラントやオイル交換後の廃液は家庭用ゴミと異なり産業廃棄物に該当します。みだりに廃棄すると、法律により罰せられます。専門の廃棄物処理業者で処理してください。

7-1. 日常点検・定期点検

ご使用者の皆さまが、この製品の性能を十分に発揮し、安全な作業をしていただけるように、日常の点検を次のようにまとめましたのでご活用ください。なお点検作業の際はタイヤに輪止めを掛けて、一部の作業を除き必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告

❍ **ブレーキ、クラッチ、ステアリング、タイヤなどに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店に整備を依頼してください。**
事故や重傷を負う原因となります。

❍ **保護フレームが損傷した時、故障した時は販売店で修理してください。**
修理せずに使用すると転倒転落時、運転者の被害が大きくなる恐れがあります。

表１　日常点検作業表

	点検箇所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
燃料系統	燃料タンクの油面	○		○	キャップ下端まで満たす（長期保管時は空にする）
	燃料タンクのキャップ	○			十分に締め付ける
	燃料タンクおよび燃料フィルタ	○			水、沈殿物などがあれば除去する
	燃料漏れ	○			有無の確認（配管、パッキンを含めて）
	燃料タンクふたパッキン	○			異常の有無確認（異常があれば交換）
潤滑系統	オイルの量	○			規定量があるか調べる
	オイルの汚れ	○			汚れの度合いを調べる
	オイルの漏れ	○			結合部など漏れを生じやすい所の確認
	グリースニップル	○		○	必要箇所にグリースを補給する

7. 点検･整備

表１　日常点検作業表

	点検箇所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
冷却系統	ラジエータの水面	○			規定量があるか調べ補充する
	ラジエータのキャップ	○			十分に締め付ける
	ラジエータ、空気取入れ口	○			付着したゴミを除去する
	水漏れ	○			有無の確認
電気系統	バッテリのターミナル	○			緩み、汚損の点検
	バッテリ液の量	○		○	規定より少ない場合は蒸留水を補給する
	前照灯	○			点灯具合が良好で、かつ汚れおよび損傷がないこと、連動のものはその状態にて点検
	ホーン、フラッシャランプ	○			作動を確認する
エンジン系統	エンジン		○		排気色の状態を点検
	計器類	○	○		各計器、表示灯などが確実に作動するか確かめる
	スタータスイッチ	○			スタータスイッチキーを「切」位置にするとエンジンが停止するか確認する
動力伝達系統	変速レバー		○		確実に操作できるか確かめる
	クラッチペダル		○		確実に作動するか、遊びが規定のとおりであるか確かめる
	ベルトの張り	○			規定のたわみに調整する
走行系統	ブレーキペダル	○	○		確実に効くか確かめる
	駐車ブレーキの効き具合	○		○	後タイヤがロックするか、またブレーキを完全に解除できるか確かめる。ロック解除ノブを押しながらブレーキレバーが正常に作動するか確かめる
	ステアリングの遊び	○			緩み、ガタがないか、遊びが規定通りあるか確かめる
	タイヤの空気圧	○			前後タイヤとも規定の圧力であるかを確かめる
	タイヤの亀裂、損傷	○			亀裂、損傷などがないかを確かめる
	リム、ハブ	○			ボルト、ナットの脱落、緩みがないかを確かめる
散布系統	各部の水漏れ	○		○	ニップル、パッキン、バンドの締め付け部などからの水漏れがないかを確認
	散布コック類	○			作動が確実か確認
	薬液タンクふた	○	○		漏れの有無を確認し締め付け確認
	ドレンプラグ	○		○	漏れの有無を確認
	薬液ポンプ	○		○	オイルがレベルまで入っているか確認
	送風機吸い込み口	○		○	葉などの異物の詰まり清掃
	薬液ストレーナ	○			清掃確認
	噴口の締め付け	○			詰まり清掃、および締め付け確認

7. 点検･整備

表 1　日常点検作業表

	点検箇所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
その他	前日の運行において異常を認められた箇所	○	○		異常を認めた箇所が完全に修理されているかを確認
	携帯工具	○		○	規定数があるか、破損がないかを確かめる
	洗車			○	洗車した後、要所に給油する
	各カバー	○			確実に取り付けられているか確認
保護装置	フレームの固定装置	○	○		保護フレームを起こすたびにガタの有無を確認、 ガタが大きい場合は、リリースレバーを一度運転席側に引く ガタが減らない場合はヒンジ内部のゴミ・異物を除去 改善しない場合は販売店で修理 ヒンジのロック機構には給脂しない
	シートベルト	○			バックルが確実にロックできること バックル中央のボタンで確実に外せること

表 2　定期点検作業表

	点検箇所	点検整備事項	点検時期			
			50 時間毎	100 時間毎	200 時間毎	年間整備
燃料系統	フィルタ	沈殿物の除去および水分排出		○		
		エレメントの洗浄または交換				○
	タンク	洗浄			○	○
	パイプおよび結合部	亀裂、ヒビ、緩み箇所の修理、締め付け	○			
潤滑系統	クランクケース	エンジンオイル交換	初回○	○		
	オイルフィルタ	フィルタの交換	初回○	○		
	ギヤケース関係	オイル交換	初回○		○	
冷却系統	ラジエータ	ゴミの清掃		○		
		冷却水交換		○		
		サーモスタット点検			○	
		湯垢取り				○
吸気系統	エアクリーナ	吸い込み部清掃	○			
		エレメント点検、清掃	○			

表 2　定期点検作業表

	点検箇所	点検整備事項	点検時期			
			50 時間毎	100 時間毎	200 時間毎	年間整備
電気系統	バッテリ	ターミナル清掃	○			
		電解液の比重計測		○		
	セルモータ	点検、清掃				○
	IC レギュレータオルタネータ	点検、清掃			○	
	電気配線	各ターミナルの緩み点検	○			○
		被覆のむけ、かみ込みの点検				○
エンジン系統	バルブ	タペットまたは揺れ腕のすきま点検			○	
	シリンダヘッド	増し締め		○		
	ブリーザキャップ	点検、清掃	○			
	燃料噴射弁	点検、清掃		○		
	エンジン全般につき	点検、清掃			○	
動力伝達系統	クラッチ	点検、調整		○		
	変速装置、差動装置	点検、調整		○		
走行系統	ブレーキ	分解点検、調整		○		
		トーインの点検			○	
	ステアリング	ピットマンアーム、キングピン、ナックルアーム、ドラックリンク、タイロッドなどの点検			○	
		タイロッドアーム点検		○		
		ナット、ボルト緩み点検			○	
	前後車軸	ホイールナット、ボルト点検			○	
保護装備	保護フレーム	ボルト、ナット緩み点検		○		
		ガススプリング		○		

- **定期点検・調整について**

定期点検や整備を農閑期にすると、農繁期には車両の性能が十分発揮され、安全で快適な作業ができます。車両の整備不良による事故などを未然に防止するために、1 シーズン毎に整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、油圧ホースなどのゴムホース類や電気配線は 2 年毎に交換して、常に車両を最良の状態で安心して作業ができるようにしてください。

7-2. 潤滑油の補給

重要
❍ 指定以外のオイルを使用すると故障の原因になるので、記載の指定オイルを使用してください。 ❍ オイルを交換するときは、廃油を容器で受け、こぼれた場合は拭き取ってください。 ❍ 交換後のオイルなどを、ゴミの中や地面、排水溝などには捨てないで、購入した販売店に相談して処理してください。

潤滑油について

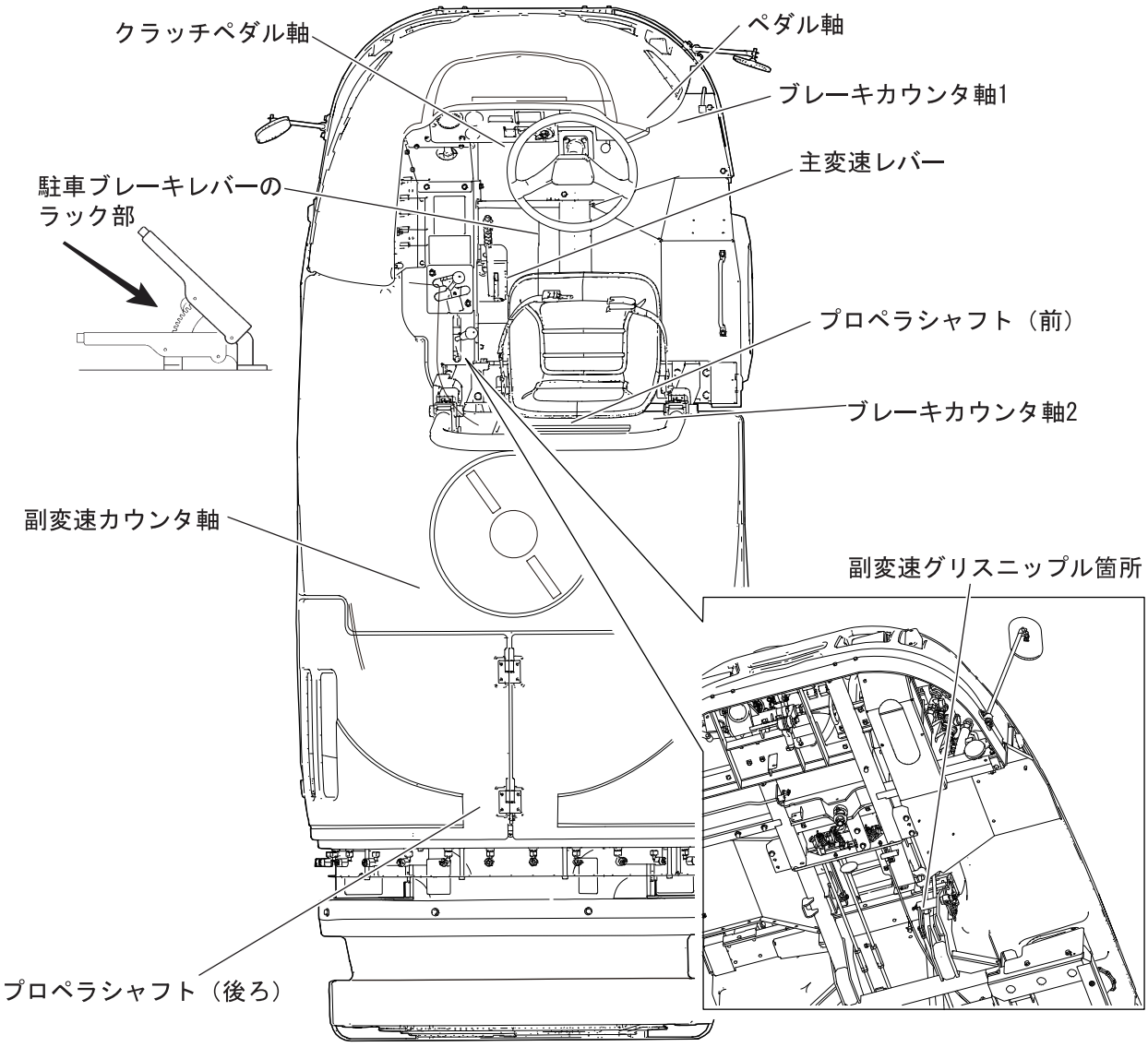
- 潤滑油には、潤滑作用のほかに冷却・洗浄作用もあります。
- 潤滑油の給油は車両の性能、耐久性と重大な関係があるので、規定の使用時間によって指定の潤滑油を規定量給油してください。
- エンジンオイルを交換するときは、運転後オイルが温かいうちに抜き取ると容易に作業ができます。
- 車両を水平にして交換してください。
- 各オイルの規定量は参考値です。交換するときは、各ゲージやレベルプラグを基準にしてください。

表 3　給油表

区分	項目	交換時期	オイルの種類	規定量
エンジン	クランクケース	初回 25 時間 以降 100 時間毎 または年間整備時	ディーゼルエンジンオイル CD 級 10W-30	3.4L
ラジエータ	ラジエータファンドライブ	初回 25 時間 以降 100 時間毎 または年間整備時	SAE#90	0.25L
動力伝達装置	送風機ギヤケース	初回 50 時間 以降 200 時間毎 または 2 年に 1 回	ギヤオイル API　GL-4 （TF500 相当品）	2.3L
	リアアクスル	同上	同上	主室側　4.8 L 入力室側 0.35 L
	フロントアクスル	同上	SAE#90	主室側　0.6 L 左右ナックル 各 0.3 L
薬液ポンプ	クランクケース	同上	エンジンオイル 10W-30	0.65 L
	プランジャ基部	毎回使用前	同上	適量
ステアリング	回転部	減量分補給	グリース	適量

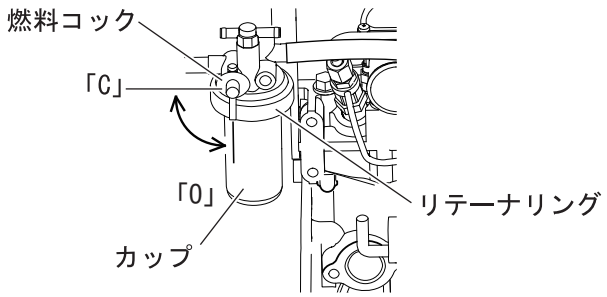
表４　グリース給油箇所

給　油　箇　所	給 油 時 期	グ リ ー ス の 種 類	数
ペダル軸	50 時間毎	シャーシグリース	3
タイロッドアーム	〃	極圧グリース	1
クラッチペダル軸	〃	シャーシグリース	1
ブレーキカウンタ軸 1	〃	〃	2
主変速レバー	〃	〃	1
駐車ブレーキレバーのラック部	〃	〃	1
ブレーキカウンタ軸 2	〃	〃	4
プロペラシャフト (前)	〃	〃	2
副変速カウンタ軸	〃	〃	1
プロペラシャフト (後)	〃	〃	2



7-3. 各部の点検

■燃料系統の点検



漏れ・にじみの確認

- 燃料パイプ、燃料フィルタ、燃料タンクドレンプラグ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。各部締め付け部なども確認してください。

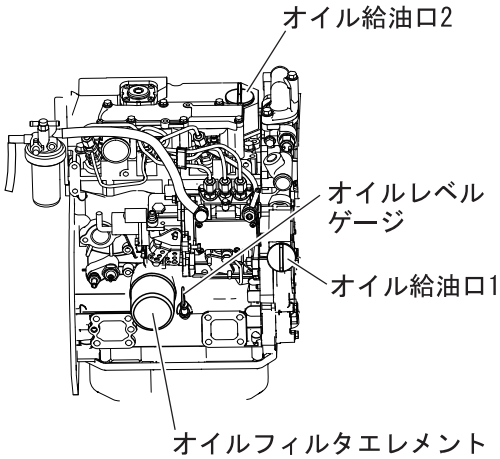
燃料フィルタ

- 燃料フィルタ エレメントは規定時期、または燃料フィルタ 清掃時、エレメントの汚れがひどいときに交換してください。燃料にゴミや水が混入するとエンジン不調の原因になります。エレメントはガソリンで洗浄しないでください。

空気抜き

- ガス欠など、燃料経路から燃料が抜けた場合は、経路から空気を抜き燃料を満たします。
- 燃料タンクに燃料があることを確認し　始動スイッチを「入」にします。燃料ポンプが燃料を送り出し燃料配管経路から空気が抜けます。10 ～ 20 秒後、確認のためエンジンを始動します。一度で始動しない場合は、始動スイッチを「入」にし、空気を抜きます。

■潤滑系統の点検

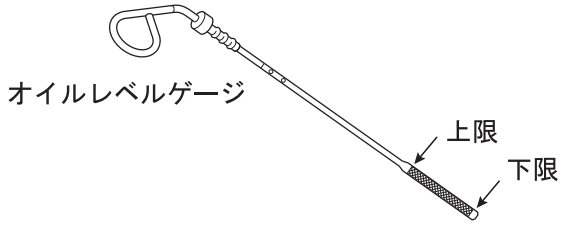


漏れ・にじみの確認

- 車両の両側から下方を見て、オイル漏れの跡がないかを確認してください。特にオイルフィルタおよびパイプの締め付け部などを点検してください。
- インジェクションポンプ、燃料パイプ、燃料フィルタ、燃料タンクドレンプラグ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。締め付け部なども確認してください。

エレメント

- エンジンのオイルフィルタエレメントは、右側エンジン中央部にあります。
- 交換時期；エンジンオイル交換時（初回 25 時間、以降 100 時間毎）
- 交換要領
  1) オイルフィルタエレメントを取り外し、新品と交換してください。
  2) 組み付けるときに、オイルフィルタエレメントの O リングに油を薄く塗布してください。
  3) O リングとオイルフィルタブラケットが当たってから 2/3 回転、手で締め付けてください。
  4) エンジンを始動させオイルフィルタエレメント取り付け部からオイル漏れのないことを確認してください。



エンジンオイル

- エンジンを始動する前に、オイルレベルゲージでオイルの量を調べてください。
- 上限と下限の間にあれば適量です。オイルが不足している場合は、給油口より給油し、数分後再び点検してください。

重要

エンジンオイルの給油は、1 の給油口を使用してください。やむを得ず　2. の給油口を使用する場合は、以下の給油方法を厳守してください。一度に最大、1.2 ℓ以下のオイルを、30 秒間隔で給油してください。
例）1.2 ℓ給油　→　30 秒待つ　→　1.2 ℓ 給油　→　30 秒待つ・・・・・
※ エンジンオイルを一度に多量に給油すると、燃料室内にエンジンオイルが流入してしまうことがあります。
※ 燃料室（ピストン頂部）にエンジンオイルが流入、滞留するとオイルハンマーを発生しエンジン破損の重故障となる危険性があります。

■冷却系統の点検

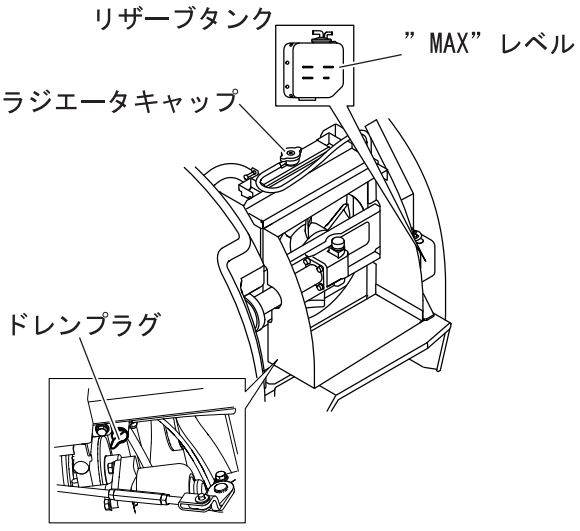
⚠ 危険

❍ **エンジン停止直後に、ラジエータキャップを外したり、冷却水ドレンプラグを緩めたりすると、蒸気や熱湯が吹き出すことがあります。ラジエータが冷えてから作業してください。**

火傷します。

重要

❍ 冷却水が自然に不足したときは、清水だけを入れてください。
❍ ロングライフクーラント、または不凍液使用の際は、不凍液の説明書に従ってあらかじめ所定の混合液を作り、必ずよくかくはんしてから、ラジエータに給水してください。
❍ ロングライフクーラントは、SAE J814、SAE J1034、ASTM D3306、JIS K2234 のいずれかの規格に適合するものを使用してください。
❍ 新しい不凍液と交換する場合は、防錆液も混合することをお勧めします。説明書の指示通りに混合した後に、5 分間エンジンを運転し、防錆液の混合を早めてください。
❍ 交換後の不凍液の処理は、購入した販売店に相談してください。



漏れ・にじみの確認

- ラジエータ、ホース接続部、ドレンプラグ等から、冷却水が漏れていないかを確認してください。寒冷時には不凍液を使用してください。

ラジエータ

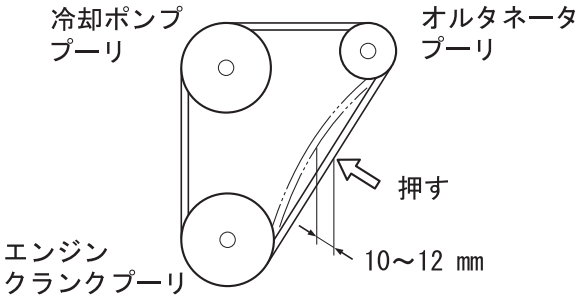
- ラジエータキャップを外し冷却水が十分あるか確認し、不足している場合はラジエータ給水口下端まで補充してください。補助タンク（リザーブタンク）の冷却水の量が「MIN」レベル以下の場合は、冷却水を補充し、常に「MAX」レベルと「MIN」レベルの間になるようにしてください。
- 冷却水が凍るとシリンダボディやシリンダヘッド、ラジエータ、冷却水ポンプなどの破損の原因になるので注意してください。不凍液の有効期間は通常 1 年間です。不凍液ご使用の際は不凍液の説明書をよく読んでください。
- 冷却系統に付いている錆、水垢、泥などを年に 1 度掃除してください。

  1）清浄液には中性洗剤を使用し、使用後は水で完全に洗い落とします。アルカリ性の洗剤は、冷却系統を腐食するので使用しない

でください。
2) ラジエータ給水口よりきれいな水をあふれるまで補給してください。
3) 次に、ラジエータキャップを確実に締めてください。
4) 水を循環させるため、エンジンを数分間稼働させてください。
5) エンジンが冷えてからラジエータ給水口の口元まで水を再度補給してください。その後リザーブタンクの「MAX」レベルまで水を補給してください。

- 冷却水の交換 … 冷却水の排水は、ラジエータキャップを外し、冷却水ドレンプラグを緩めて完全に抜いてください。

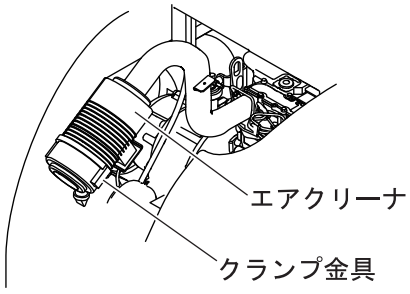
ラジエータ冷却水量	
規定量	リザーブタンク容量
3.0 L	0.4 L



V ベルトの張り調整

- V ベルトが緩むとエンジンの冷却力や、オルタネータの発電量が不足します。また張りが強すぎるとベルトが切れたり、シャフトに無理がかかったりするので、オルタネータと冷却ポンププーリの寿命が短くなります。
- エンジンクランクプーリとオルタネータプーリの中間部を指で押し、たわみが 10 ～ 12 mm になるようにベルトの張りを調整してください。
- たわみ量が多い、または少ないときは、オルタネータのアジャスタボルトを緩めて、オルタネータの位置をずらし各ベルトの張りを調整してください。
- 調整後は、アジャスタボルトを確実に締め付けオルタネータ固定してください。

■吸気系統の点検



エアクリーナ

- エアクリーナ本体にある取り付け金具を外しボディー内よりエアクリーナエレメントを取り出してください。
- ボディ内部のゴミを取り除いて、ガスケットの傷みを調べてください。
- エアクリーナエレメントは内側からエアを吹き付けホコリを取り除いてください。(エアの圧力は 0.5 MPa (5 kgf/cm2) 以下にしてください)
- エアクリーナエレメントには、油などを付着させないようにしてください。

表 5　エアクリーナの点検と清掃時期

ホコリ・ゴミの多い場所	20 時間毎
普通の場所	50 時間毎

■電気系統の点検

⚠ 危険

❍ バッテリを取り扱うときは、バッテリ液、火気などに十分に注意してください。
❍ ＋ターミナルにカバーがある場合は、カバーを付けてください。
❍ バッテリの上またはバッテリカバーの上には、物を置かないでください。



火災や、火傷を負うことになり、失明することもあります。

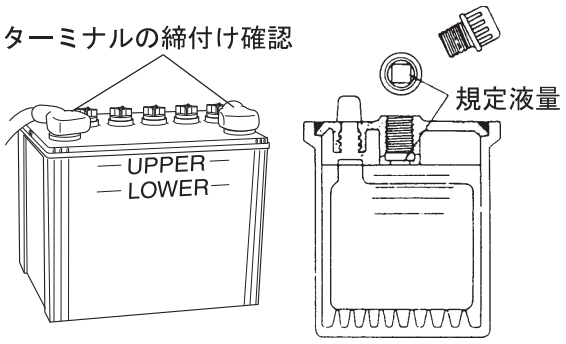
❍ バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。
❍ バッテリのコードは、押さえ金具などの金属部分に近づけないようにして、接触（ショート）しないように確実に固定してください。

バッテリが破裂（爆発）することになります。

⚠ 警告

❍ 充電をするときは、換気をして、タバコなどの火気を近づけないでください。
❍ 車両にバッテリを載せたまま充電するときは、エンジンを停止して、前照灯など電源を必要とするスイッチを切り、－側のターミナルを外してください。
❍ 充電器のスイッチを切ってから、充電クリップを接続したり、取り外したりしてください。
❍ 充電中にバッテリテスタを使用しないでください。
❍ バッテリ液を扱うときは、ゴム手袋、保護めがねをしてください。
❍ バッテリ液に触れたり、バッテリ液が目に入ったりしたときは、すぐに水で洗い流し医師に相談してください。
❍ 使用済みバッテリの処理は、購入した販売店に依頼してください。

火災、火傷、失明の原因となります。

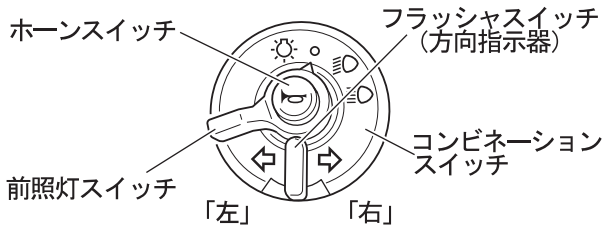


バッテリ

- バッテリの液量は注入口の液面指示までです。少ないときは蒸留水を補充してください。
- バッテリの上面と側面やターミナルが汚れているときは、水またはぬるま湯で清掃してください。
- ターミナルは防錆のため、ワセリンかグリースを薄く塗ってください。
- オルタネータを使用しているので、充電器で充電するときは必ずターミナルを外してください。
- バッテリ端子を取り付けるときは、＋側を先に取り付け、取り外すときは－側から取り外してください。
- 急速充電器で大電流を流すとバッテリの極板を傷めるので低電流で充電してください。
- バッテリ液の比重は温度 20 ℃で 1.28 が完全充電状態です。
- ＋と－のターミナル部がしっかりと締め付けができているか確認してください。
- バッテリの端子カバーは、必ず取り付けてください。

ヒューズ

- 各種のランプが点灯しないときや、電気系統の装置が動かないときはヒューズが切れている場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておくと便利です。（13 ページ参照）



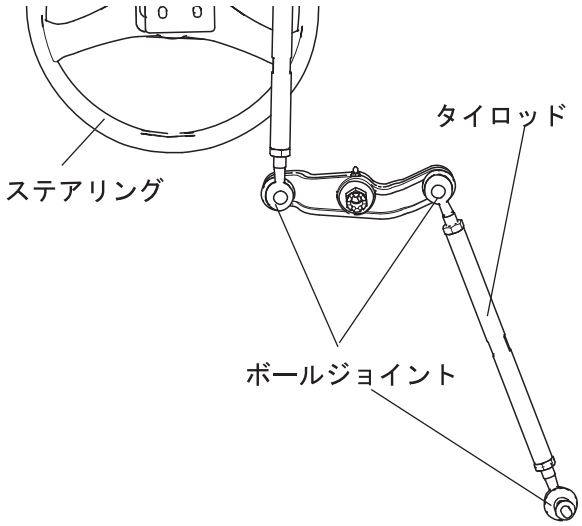
前照灯、フラッシャランプ

- 前照灯、フラッシャランプが点灯するか、スイッチに故障がないかを確認してください。
- 前照灯の調整が必要なときは、販売店に相談してください。

ホーン

- 正常に音が出るかを確認してください。

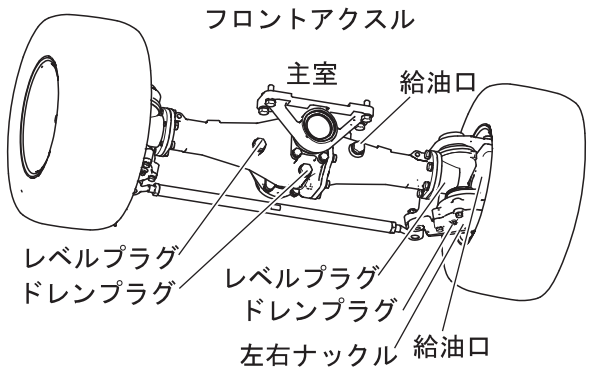
■走行系統の点検



ステアリング

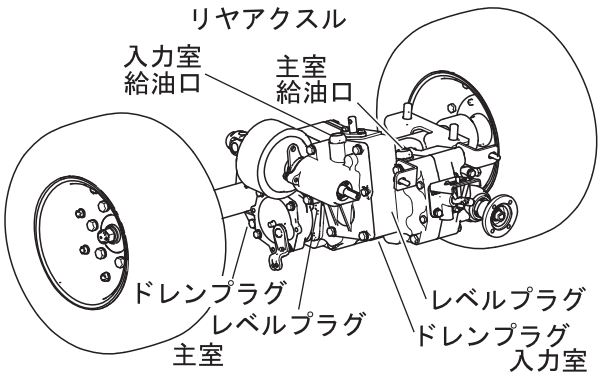
次の項目を確認してください。

- ステアリングに大きな遊びやガタがないこと。（ステアリングの遊びは外周で 50 mm 以下が正規です。）
- ドラッグリンク、タイロッドなどに遊びやガタがないこと。



フロントアクスルケースオイル

- ドレンプラグを外し、オイルを抜いてください。
- オイルが完全に抜けたら、ドレンプラグを確実に締め、新しいオイルをレベルプラグまで給油してください。



走行ミッションオイル・リヤアクスルケースオイル

- ドレンプラグを外し、オイルを抜いてください。
- オイルが完全に抜けたら、ドレンプラグを確実に締め、新しいオイルをレベルプラグまで給油してください。

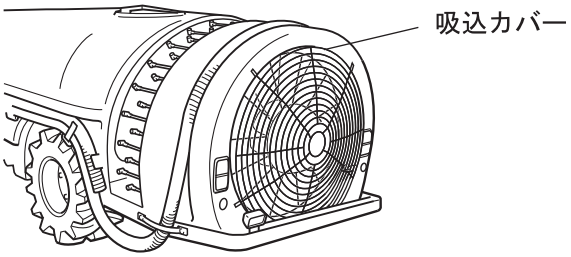
タイヤの空気圧	
前タイヤ	後タイヤ
200 kPa	

タイヤ・ホイール

次の項目を点検してください。

- タイヤの空気圧
- タイヤに損傷がないことホイールナット、またはホイールボルトが緩んでいないこと

■散布系統の点検



散布装置

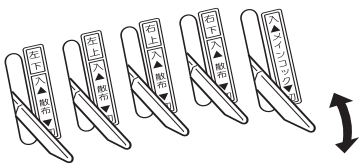
警告

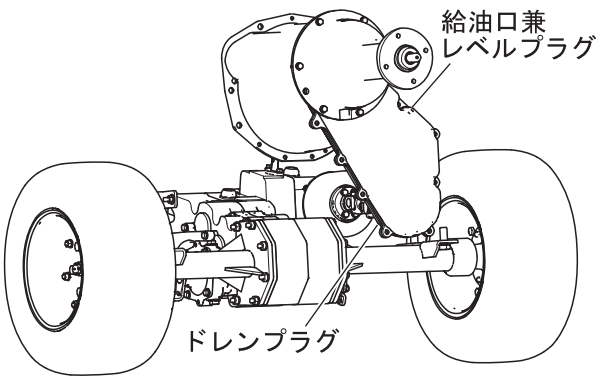
❍ 運転中は送風機に近づかないでください。送風機から草などを取り除くときは、エンジンを停止し、ファンが確実に停止したことを確認してください。



衣服が吸い込まれることがあります。

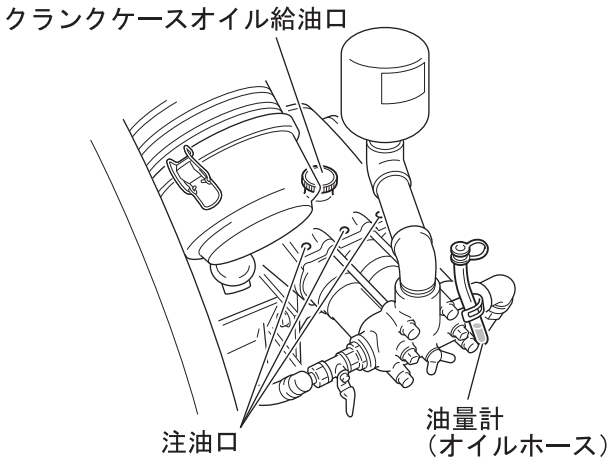
- 送風機吸い込み口に木の葉や小枝およびその他の異物が詰まっていると、送風効果が下がるので、その都度取り除いてください。
- 送風機内部に異物が入っているときは、吸い込みカバーを外して取り除いてください。
- ノズルを全数点検し、樹形に適したノズル配置を決めて、締め付け状態を確認してください。
- 散布コックレバーが軽く動くことを確認してください。





送風機ギヤケースオイル

- ドレンプラグを外し、オイルを抜いてください。
- オイルが完全に抜けたら、ドレンプラグを確実に締め、新しいオイルをレベルプラグまで給油してください。

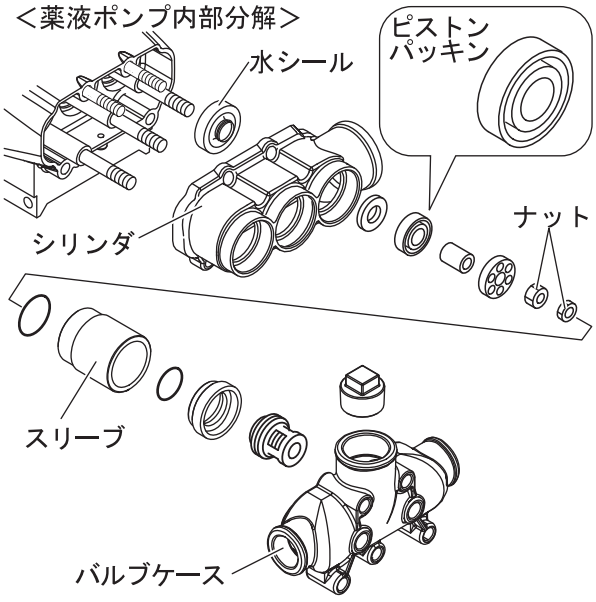


薬液ポンプ

- 車両が水平のとき油量計（オイルホース）内の油面がクランクケース中央にあることを確認してください。
- 不足しているときは、クランクケースオイル給油口から規定レベルになるまでオイルを給油してください。
- 付属のオイラでプランジャオイル注油口から10滴程度注油してください。

＊ 指定オイル：エンジンオイル CD 級 10W-30

- オイル交換の際は、古いオイルを油量計先のキャップから排出してください。



ピストンパッキン・水シール

重要
❍ ピストンパッキンや水シールを交換するときは、向きを間違えないようにしてください。

- 長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったりしたときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

ポンプベルト

- ベルトの張りとベルトが損傷していないことを確認してください。

7-4. 故障対策

⚠ 警告

❍ブレーキ、クラッチ、ステアリング、タイヤなどに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店に整備を依頼してください。

事故や重傷を負う原因となります。

スピードスプレーヤを、防除時期に満足に使用するために、点検・整備をきちんとしてください。運転不調を生じた場合は、次の故障探求表によって順次調べてください。ご不明の点または正常に作動しない場合は、販売店にご相談ください。
☆印は販売店に整備を依頼してください。

■故障探求表

	症状		原因	対応
車両操作	ステアリング操作不円滑	走行中にステアリングが重い	タイヤの空気圧不揃い	空気圧調整
			電動パワーステアリング不具合	☆点検・修理
		走行中にステアリングがとられる	タイヤの空気圧不揃い	空気圧調整
			ホイールアライメントの不良	☆調整
	変速レバーの操作が不円滑	ギヤがかみ合わない	クラッチが切れない	☆点検・調整
			シフタリンクの調整不良	☆点検・調整
			ミッション内部の故障	☆点検・調整
		ギヤが抜けない	クラッチが切れない	☆点検・調整
			シフタリンクの調整不良	☆点検・調整
			ミッション内部の故障	☆点検・調整
	車速が遅い	クラッチが滑る	シフトダウンする	
			クラッチの遊びが小さい	☆点検・調整
	ブレーキの効きが悪い	ブレーキペダルの踏込量が多い	ブレーキ摩擦板の消耗	☆点検・調整
			ブレーキリンクの調整不良	☆点検・調整
		ブレーキペダルが重い	リンク系のグリース切れ	給油
			ブレーキリンクの調整不良	☆点検・調整
薬液系統	吐出量不足 薬液ポンプ不良	回転不足	クラッチの滑り	☆調整・交換
			ベルトのゆるみ	☆調整・交換
		ポンプの故障	弁の固着	清掃・交換
			弁の摩耗	交換
			水シールの摩耗	交換
	配管部不良	水漏れ	パッキンの消耗	交換
			ホースの破損	交換 (または修理)
		詰まり	こし網の目詰まり	清掃
			ノズルの詰まり	清掃
送風系統	送風能力不足		吸込みカバーの詰まり	清掃
		回転不足	クラッチが滑る	☆点検・調整

7. 点検･整備

	症状		原因	対応
エンジン関係	エンジンが始動しないまたは困難	セルモータが回転しない	バッテリーの放電	充電する
			配線接続の不完全	清掃・締付
			セルモータまたはスイッチの故障	☆交換または修理
			クラッチペダルの踏み込み不足	いっぱいに踏み込む
			薬液ポンプ・送風機スイッチ「入」	両方とも「切」
		セルモータは回転するが始動しない / 燃料が噴射されていない	燃料タンクに燃料がない	燃料補給・空気抜き
			フィルタの詰まり	清掃・交換
			インジェクションポンプに空気が入っている、あるいは不良	空気抜き
		燃料は噴射されているが始動しない	予熱操作が不適切（予熱不十分）	正しく操作
			グロープラグ不良	☆交換
		エンジンは始動するが回転が続かない	インジェクションポンプ・燃料パイプに空気が入っている	空気抜き
	エンジン回転不円滑	アイドリング不円滑	アイドリング調整不良	☆調整
		高速回転不調・燃料供給不十分	空気抜き不十分	空気抜き
			燃料フィルタの詰まり	点検・清掃
		高速回転のまま止まらない	アクセルワイヤおよびリンクの引掛かり	☆点検・修理
	エンジン出力不足	噴射ポンプ・インジェクション関係の調整・ポンプへの燃料不足	燃料タンクの燃料不足	燃料補給
			インジェクションポンプへの空気混入	空気抜き
			フィルターの詰まり	清掃
		吸入空気量の不足	エアクリーナの詰まり	清掃または交換
	オーバーヒート（過熱）	冷却系統不完全	冷却水量の不足	冷却水補充
			V ベルトの滑り	調整
			加圧冷却装置の不完全	☆点検・調整
			冷却系統内部の汚れ	☆点検・清掃
			ラジエータの目詰まり	点検・清掃
		車両の取扱い不適等	エンジン回転の上げすぎ	適正にする

■電動パワーステアリング

電動パワーステアリングの特性により故障と間違える症状があります。

症　状	EPS 警告ランプ	車両の操作	原　因	対　応
ステアリング操作重い	点灯なし	ステアリング操作が多い長時間すえぎり	発熱保護制御状態	ステアリング操作せずに放置
		ー	バッテリ容量不足	充電又は、交換
ステアリング操作力のバラツキ	点灯なし	車両にダメージ伴う軽い事故など	ステアリング機構の操作力が一定でない。	車両修理
パワーステアリングが効かない	点灯	ー	ハーネス不良	コネクタ等点検
	点灯なし	ー	ヒューズの切れ	ヒューズ交換
		ー	パワーステアリングコントローラの初期化	車両修理
ステアリング操作時ライトが暗くなる	点灯なし	ステアリング操作	バッテリ容量不足	充電または交換

■廃棄するとき

❍ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

7-5. 長期格納整備

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に製品の分解、清掃、修理整備をして、来年の散布作業が支障なくできるようにしましょう。格納整備は購入した販売店に相談してください。格納整備は使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

エンジン

- 製品から工ンジンを降ろしてオーバーホールし、不良箇所は修理し、細部にわたって清掃・点検・調整をします。

薬液ポンプ

- 製品からポンプを降ろしてオーバーホールし、不良箇所は修理し、細部にわたって清掃・点検・調整をします。

薬液配管

- 薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。

送風機

- 軸受け部、継ぎ手などが滑らかで静に回転しているかどうかを調べます。筐体部に腐食が多い場合、再塗装します。

走行部

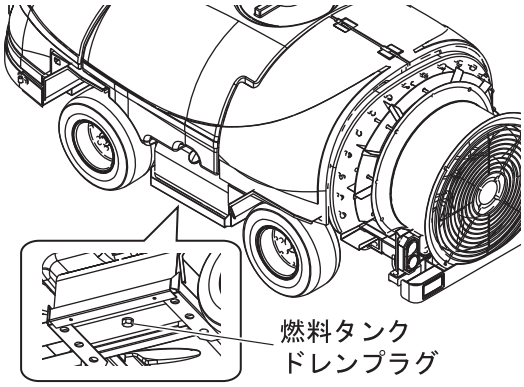
- 駆動部分、ブレーキなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐食が多い場合、再塗装します。

バッテリ

- バッテリはたえず自己放電し、約 3ヶ月で使用不可能となるので、長期間製品を使用しない場合は、1ヶ月に 1 度は必ずバッテリ液の量を確認し、補充電してください。 1 ヶ月を越えて格納する場合は、 −側ターミナルを外してください。
- バッテリターミナルを外す場合、エンジン停止後充分な時間（15 秒以上）置いてから端子を外してください。

整備が終わった後に、長期格納保管する前に、次の項目を実施してください。

- 燃料タンク内の燃料を完全に排出する。排出後は燃料タンクドレンプラグを確実に締め付ける。
- 冷却系統の水を完全に排出する。
- 薬液タンクのふた、薬液タンクドレンキャップは開いておく。
- キーを抜いて、大切に保管する。
- 金属表面の出ている所は油布で軽く表面を拭く。
- タイヤの空気圧を調べ、空気が足りないときは入れる。
- 風通しの良い、湿気の少ない場所でエンジンが冷えたのを確認後、防塵カバーを掛けて保管する。



8. 仕様

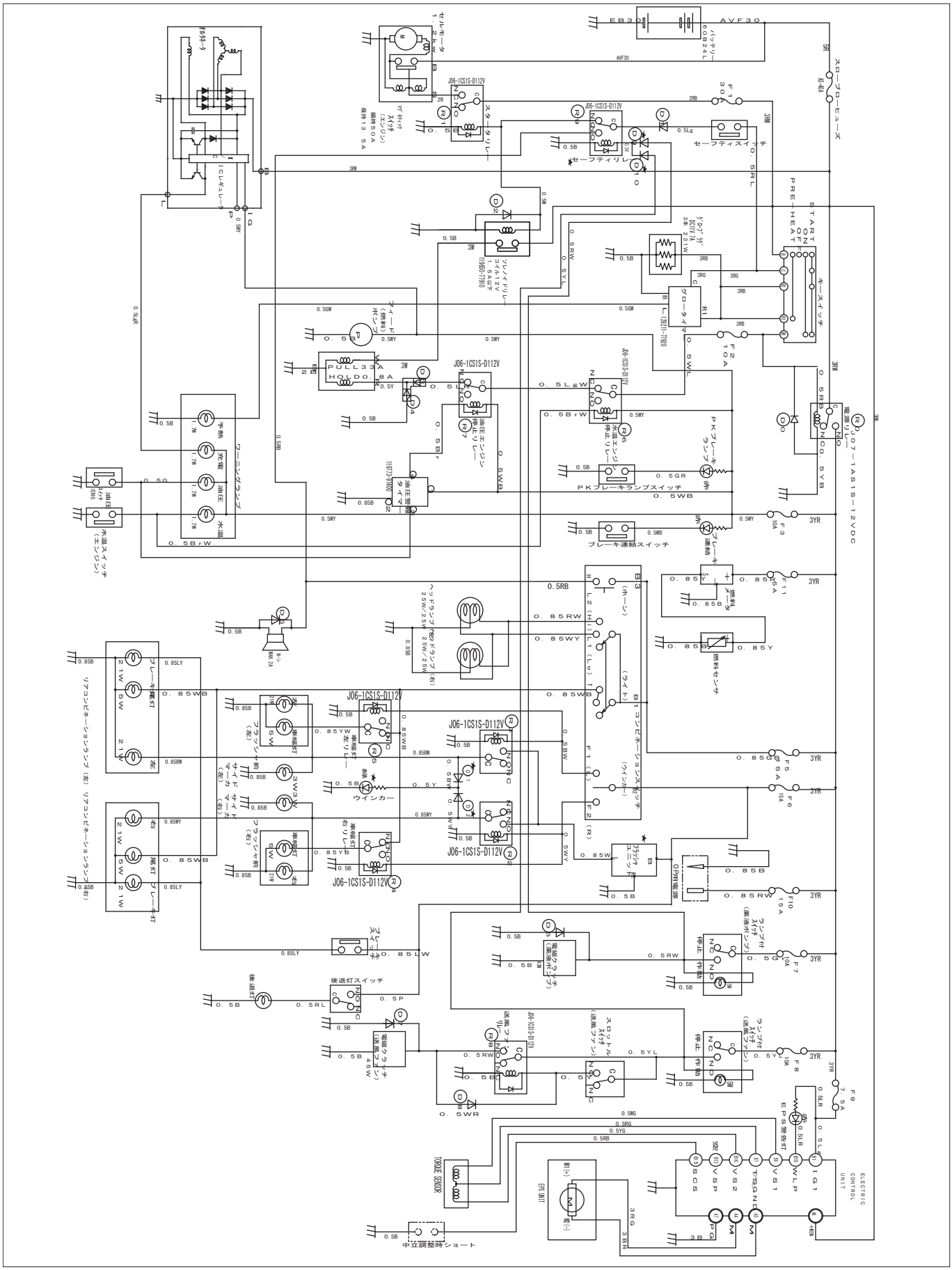
型式名	SSV5150F			
区分	項目		単位	
車両寸法	全長		mm	2,995
	全幅		mm	1,298
	全高 （保護フレーム倒 / 起）		mm	1,275/1,750
車両質量	全体 (燃料満、オイル規定量）		kg	925
	全備 (満水)		kg	1,425
エンジン	型式名		-	ヤンマー　3TNV76
	種類		-	水冷 4 サイクル 3 気筒 ディーゼルエンジン
	総排気量		L	1.115
	常用最大出力		kW/rpm	16.7/2,800
	使用燃料		-	軽油
	燃料タンク容量		L	18
	始動方式		-	セルモータ式
走行部形式	駆動方式		-	4 輪 4 駆 (常時直結)
	タイヤ	前タイヤ	-	20×10.00-10 (4PR)
		後タイヤ	-	20×10.00-10 (4PR)
	変速段数		-	前進 6 段・後進 2 段
		前進 1 速	km/h	副変速低速 2.0
				副変速高速 6.9
		前進 2 速	km/h	副変速低速 3.1
				副変速高速 10.6
		前進 3 速	km/h	副変速低速 5.0
				副変速高速 18.4
		後進	km/h	副変速低速 2.7
				副変速高速 9.3
薬液タンク容量			L	500
かくはん方式			-	機械式 (常時回転)
薬液ポンプ	型式		-	SP745S
	形式		-	3 連ピストン式
	常用回転速度		rpm	1,000
	常用吐出圧力		MPa(kgf/cm^2)	標準 1.5(15)
	総吐出量		L/min	60
給水ポンプ	-		-	オプション

8. 仕様

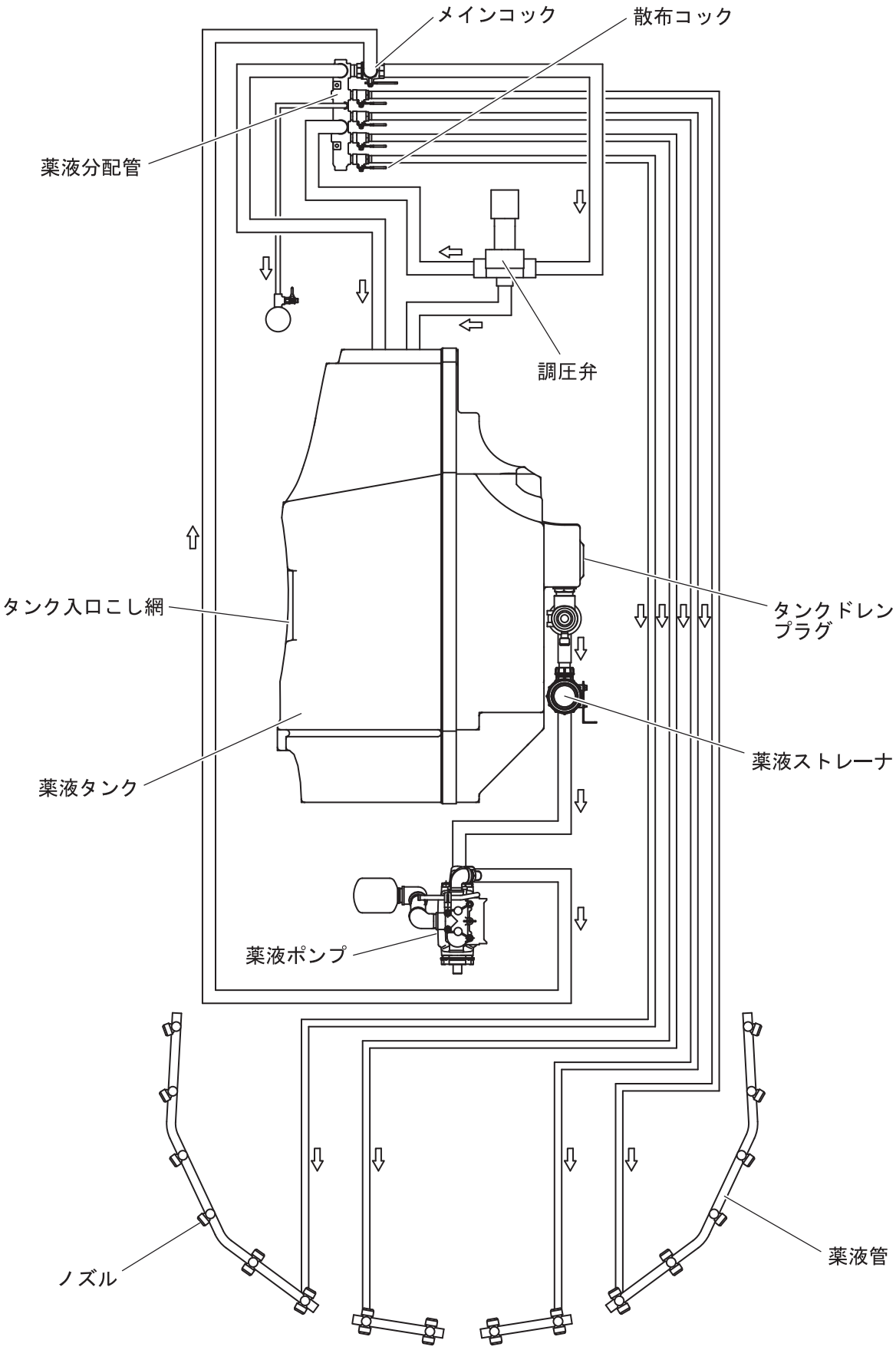
区分	項目	単位	
送風機	形式	-	軸流式
	常用回転速度	rpm	1,970
	使用時風量	$m^{3/}min$	500
ノズル	種類	-	ディスクノズル形
	個数	個	16（全数スイッチノズル）
	最大噴霧量	L/min	50
	圧力	MPa(kgf/cm^2)	標準 1.5(15)
安全性検査合格番号			NARO 23/036
型式認定番号			農 3245
運転免許			普通免許

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

9. 配線図



10. 配管図



配管図の中の矢印は水または薬液の流れる方向を表しています。

11. 小型特殊自動車の点検

- 自動車が常に適切な状態で使用されるように、使用者には点検・整備を確実に実施することが道路運送車両法で義務づけられています。
- 安全に作業をするために、下記に示す日常点検、定期点検、定期部品交換をします。販売店に依頼して 1 シーズン毎の年間整備をします。点検・整備した内容について記録を残します。

  事故や重傷を負う原因となります。

参考標準締め付けトルク表

呼び径		4T	7T	10.9T
M6	N・m	4.9 ～ 6.9	7.8 ～ 11.8	-
	Kgf・m	0.5 ～ 0.7	0.8 ～ 1.2	-
M8	N・m	12.7 ～ 16.7	22.6 ～ 29.4	29 ～ 41
	Kgf・m	1.3 ～ 1.7	2.3 ～ 3.0	3.0 ～ 4.2
M10	N・m	24.5 ～ 32.4	44.1 ～ 58.9	61 ～ 80
	Kgf・m	2.5 ～ 3.3	4.5 ～ 6.0	6.2 ～ 8.2
M12	N・m	44.1 ～ 58.8	78.5 ～ 98.1	103 ～ 132
	Kgf・m	4.5 ～ 6.0	8.0 ～ 10.0	10.5 ～ 13.5
M14	N・m	77.0 ～ 83.4	117.7 ～ 147.2	152 ～ 201
	Kgf・m	7.0 ～ 8.5	12.0 ～ 15.0	15.5 ～ 20.5
M16	N・m	107.9 ～ 137.3	166.8 ～ 206.0	-
	Kgf・m	11.0 ～ 14.0	17.0 ～ 21.0	-
M20	N・m	215.8 ～ 264.9	323.7 ～ 402.2	-
	Kgf・m	22.0 ～ 27.0	33.0 ～ 41.0	-

11. 小型特殊自動車の点検

定期交換部品項目	点検・交換時期	交換方法	参照ページ
バッテリ (60B24L)	劣化・損傷時交換	指定バッテリに交換、廃棄処理は購入した販売店に	47
電球関係	劣化・損傷時交換	点火不良時、切れている場合純正部品に交換	–
スローブローヒューズ (40A)	劣化・損傷時交換	作動不良時、販売店にて交換	–
ミニヒューズ (5A ～ 30A)	劣化・損傷時交換	点火不良時、切れている場合純正部品に交換	13
エアクリーナエレメント	500 時間 塵の多い場所：200 時間	純正部品に交換	46
燃料フィルタ	500 時間	同上	44
エンジンオイルフィルタ	初回：50 時間 以降：200 時間	エンジンオイルに交換時、同時に純正部品に交換	44
タイヤ	劣化・損傷時交換	著しい損傷、亀裂、異常な摩耗が生じたとき純正部品に交換	–
燃料ホース	2 年	年間整備・点検時、販売店にて交換	–
エンジン冷却ホース	2 年	同上	–
電気配線	2 年	同上	–
走行クラッチアッセンブリ	4 年	同上	–
ブレーキ摩擦板	4 年	同上	–
V ベルト	2 年	同上	–
コントロールワイヤ	2 年	同上	–

●は保安確保の標準として推奨する点検時期、○はメーカーで推奨する点検時期です。

点検整備項目			点検整備時期 小型特殊自動車				点検整備方式			参照ページ
点検箇所		点検項目	日常点検	50時間毎	200時間毎	年間整備	点検の方法	判定基準	整備の実施方法	
かじ取り装置	ステアリング	操作具合	○			●	運転席にてエンジンを始動し、操作して確認	ゆるみやガタがなく遊びが 50 mm 以下。左右に著しい相違がない	販売店にて点検・整備	48
	ギヤボックス	取り付けの緩み		○		●	触手、目視	取り付けのゆるみ、ガタがない	油・汚れを取り除きねじロックを使用し規定値で締め付け	-
	ロッドおよびアーム類	ゆるみ、ガタおよび損傷	○			●	触手、目視	ロッドおよびアーム類にゆるみやガタがない	販売店にて点検・整備	48
		ボールジョイントのダストブーツ亀裂および損傷		○		●	目視	ボールジョイントのダストブーツに亀裂および損傷がない	販売店にて交換	48
制動装置	ブレーキペダル	踏みしろ	●			●	運転席で操作して確認	踏みしろが適当で、遊びが 40 ～ 50 mm	販売店にて点検・整備	-
		遊びおよび踏み込んだときの床板とのすき間	○			●	運転席で操作して確認	力強く踏んでもペダルが床面・周辺部位に接触しない	販売店にて点検・整備	-
		ブレーキの効き具合	●			●	通常走行時に操作して確認	ブレーキの効きが十分か、片効きしないか	販売店にて点検・整備	-
	駐車ブレーキ機構	引きしろ、または踏みしろ	●			●	運転席で操作して確認	ノッチの作動回数が５～９回	販売店にて点検・整備	-
		ブレーキの効き具合	○			●	坂道で操作して確認	後タイヤがロックする	販売店にて点検・整備	38
	ブレーキディスクおよびパッド	ブレーキペダルの踏みしろ、遊び、踏み込んだときのすき間		○		●	運転席で操作して確認	ブレーキロッドのターンバックルで調整可能	販売店にて点検・整備	-

＊ 締め付けトルクは「参考標準締め付けトルク表」を参照してください。

●は保安確保の標準として推奨する点検時期、○はメーカーで推奨する点検時期です。

点検整備項目			点検整備時期				点検整備方式			参照ページ
			小型特殊自動車							
点検箇所		点検項目	日常点検	50時間毎	200時間毎	年間整備	点検の方法	判定基準	整備の実施方法	
走行装置	タイヤまたはクローラ	空気圧	●				タイヤゲージで空気圧確認	規定値である	空気圧調整	49
		亀裂および損傷	●				目視	タイヤ側面や接地部全周に著しい損傷や亀裂がない	タイヤを交換	49
		異常な摩耗	●				目視	タイヤ側面や接地部全周に著しい損傷や亀裂がない	タイヤを交換	-
		溝の深さまたはラグ高さ	●				目視	ラグの段差が 10 mm 以上	タイヤを交換	-
	ホイール	タイヤの状態	○			●	目視	タイヤに亀裂、損傷および異常な摩耗がない	タイヤを交換	-
		ホイールナットおよびホイールボルトの緩み	○		●	●	触手、目視	ホイールナットおよびホイールボルトの緩みがない	油・汚れを取り除き、規定値で締め付け	38
		フロントホイールベアリングのガタ		○		●	ジャッキアップして触手にて確認	異常なガタがない	販売店にて点検・整備	-
		リヤホイールベアリングのガタ		○		●	ジャッキアップして触手にて確認	異常なガタがない	販売店にて点検・整備	-

＊ 締め付けトルクは「参考標準締め付けトルク表」を参照してください。

●は保安確保の標準として推奨する点検時期、○はメーカーで推奨する点検時期です。

点検整備項目			点検整備時期				点検整備方式			参照ページ
			小型特殊自動車							
点検箇所		点検項目	日常点検	50時間毎	200時間毎	年間整備	点検の方法	判定基準	整備の実施方法	
動力伝達装置	クラッチ	ペダルの遊びおよび切れたときの床板とのすき間	○		●	●	運転席で操作して確認	遊びが 20 ～ 25 mm	クラッチロッドのターンバックルで調整	-
		作用	○		●	●	通常走行時に操作して確認	「切」、「半クラッチ」、「入」の状態が確実に判断できる	販売店にて点検・整備	21
	走行ミッションおよびトランスファ	油漏れおよび油量	○	○	●	●	ミッションケースの漏れ確認。オイルゲージにて油量が確認	漏れがない。油量が規定レベル	漏れは販売店にて点検・整備。油量は規定量給油。	48
	プロペラシャフトおよびドライブシャフト	連結部のゆるみ		○	●	●	触手、目視	連結部にゆるみがない	販売店にて点検・整備	-
		継ぎ手部のガタ		○		●	触手、目視	継ぎ手部に著しいガタがない	販売店にて点検・整備	-
	ディファレンシャル	油漏れおよび油量	○	○	●	●	アクスルケースの漏れ確認、オイルゲージにて油量確認	漏れがない。油量が規定レベル	漏れは販売店にて点検・整備。油量は規定量給油。	48
電気装置	バッテリ	液量	●				目視にて規定量を確認	規定量である	蒸留水を補給	47
		ターミナル部の接続状態	○	○		●	触手、目視	バッテリターミナル部にゆるみおよび損傷がない	損傷は販売店にて点検・整備	47
	電気配線	接続部のゆるみおよび損傷	○	○		●	触手、目視	電気配線接続部にゆるみおよび損傷がない	損傷は販売店にて点検・整備	-

＊ 締め付けトルクは「参考標準締め付けトルク表」を参照してください。

●は保安確保の標準として推奨する点検時期、○はメーカーで推奨する点検時期です。

点検整備項目			点検整備時期				点検整備方式			参照ページ
			小型特殊自動車							
点検箇所		点検項目	日常点検	50時間毎	200時間毎	年間整備	点検の方法	判定基準	整備の実施方法	
原動機	本体	かかり具合および異音	●				操作法に従って始動させ、異音を確認	かかり具合が良く、異音がない	販売店にて点検・整備	18
		エアクリーナエレメントの状態		○	●	●	運転前にエレメントを取り外し点検	ボディ内部およびエレメントにゴミ、ホコリがない。変形、破損がない	エアで掃除または交換	46
		低速および加速の状態	●			●	エンジン運転中にアクセルレバーを操作して確認	低速時のエンジン回転にむらがなく、高速へ操作したとき滑らかに加速する	販売店にて点検・整備	-
		排気の状態	○		●	●	暖機運転後、目視で排気の色を確認	無負荷運転時は無色	販売店にて点検・整備	-
	潤滑装置	油量	●	○			オイルの量および汚れをレベルゲージで確認	油量が規定レベル。著しい汚れがない	給油または交換	42
		油漏れ	○		●	●	結合部などの漏れを確認	漏れがない	販売店にて点検・整備	44
	燃料装置	燃料漏れ	○			●	パイプおよび結合部などの漏れを確認	漏れがない	販売店にて点検・整備	44
	冷却装置	水量	●				リザーブタンクの液面レベルを点検	水量が規定レベル	規定量を給水	45
		ファンベルトのゆるみ、張り具合および損傷		○		●	触手、目視	ファンベルトのたわみが 10 ～ 12mm ベルトに損傷がない	張り具合はテンションアームにて調整。 損傷は交換	46
		水漏れ	●		●	●	パイプおよびラジエータ本体などの漏れを確認	漏れがない	販売店にて点検・整備	-

＊ 締め付けトルクは「参考標準締め付けトルク表」を参照してください。

●は保安確保の標準として推奨する点検時期、○はメーカーで推奨する点検時期です。

点検整備項目		点検整備時期				点検整備方式			参照ページ
		小型特殊自動車							
点検箇所	点検項目	日常点検	50時間毎	200時間毎	年間整備	点検の方法	判定基準	整備の実施方法	
灯火装置および方向指示器	点灯または点滅具合および汚れ、損傷	●				操作して作動確認。汚れ、損傷は目視確認	汚れ、損傷がなく、作動が正常	汚れは清掃。作動不具合、損傷は修理または交換	12
警音器	作用	○		●		操作して作動確認	正常に作動する	配線結合部、ヒューズを確認。異常ない場合は販売店にて点検・整備	-
エグゾーストパイプおよびマフラ	取り付けのゆるみおよび損傷		○		●	運転前に触手、目視で確認	ゆるみ、損傷、腐食がない	結合部を増し締め。損傷は販売店にて点検・整備	-
	機能		○		●	エンジン運転中に 目視で確認	排気漏れおよび異音がない	販売店にて点検・整備	-
車枠および車体	ゆるみおよび損傷		○		●	触手、目視で確認	ゆるみ、損傷、腐食がない	結合部を増し締め。損傷は販売店にて点検・整備	-
その他	運行において異常が認められた箇所	●				前日までの使用時に異常があった箇所を確認	異常を認めた箇所が完全に修理されている	点検項目に従って点検・整備	-
	シャーシ各部の給油、給脂状態	○	○	●	●	潤滑油の給油	指定箇所・時期に給油	給油	42

＊ 締め付けトルクは「参考標準締め付けトルク表」を参照してください。

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-031724
X750004-2505　　2406f 0408 ES

(C) 2023 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。